

令和5年度 研究紀要

しらかみ

第 30 号

児童生徒の学びが「見える」授業づくり
—指導と評価の一体化による確かな成長を目指して—
(1年次／2か年計画)

秋 田 県 立 能 代 支 援 学 校

発刊に当たって

現行学習指導要領の改訂により、知・徳・体にわたる「生きる力」を育むために、全ての教科等の目標及び内容が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の育成を目指す資質・能力の三つの柱に再整理されました。学習指導要領に基づいて、各教科の指導を通して資質・能力をバランスよく育成することが明示されたのです。知的障害特別支援学校においても、中学部の指導段階が2つに分けられたことを踏まえて、児童生徒が確実に学びを積み重ねられるよう、学部段階間及び学校段階間の接続を円滑に行うことが示されました。その実現に向けて、学習評価に当たっては、学習指導要領に定める目標に準拠して学習状況を分析的に捉えられるよう「観点別学習状況の評価」の実施が求められています。これに関する先駆的な取組として、文部科学省の実験学校や国立特別支援教育総合研究所の研究協力校の実践が報告され、その在り方が議論されています。

これらを踏まえて、本校では、本年度から研究主題を『児童生徒の学びが「見える」授業づくり～指導と評価の一体化による確かな成長を目指して』とし、2か年にわたる研究に取り組むことにしました。本研究は、知的障害特別支援学校学習指導要領に示す各教科等の目標・内容を確実に達成するため、各教科における「観点別学習評価表」を作成し、これに基づいて改めた個別の指導計画及び各教育計画を活用し、「各教科等を合わせた指導」の在り方を検討するものです。

なお、本校の「観点別学習評価表」は、入学から卒業までの学習の足跡を記す「学びの履歴シート」を兼ねています。また、改めた個別の指導計画や年間指導計画（試案）の様式は、教科別の指導はもちろん、各教科等を合わせた指導においても、各教科等の目標や内容を明記し、確実に指導していけるように関連付けました。一貫して留意したのは、「普段使いできる平易さ」です。なぜなら、学校における研究の「ゴール」として、私たちは、研究で得た成果を共有し、それらを日々の授業の中で当たり前を活用していくことを目指しているからです。本研究を通じて得た知見や技術はもとより、「観点別学習評価表」や「各教育計画」等を含めて、日々の教育活動において効率的に活用できるもの、すなわち、「普段使いできる仕組み」として、その検討と効果的な運用について、日々の実践を通して検証しています。

本紀要では、研究1年目の試行錯誤の経過を記しました。全国の先進校の取組を参考にしつつ、本校の身の丈に合った実践の一端をまとめたものです。拙い実践ではありますが、御一読の上、皆様からの御指導や御助言を賜りますようお願いいたします。

結びになりますが、本研究に対し、丁寧な御指導をいただきました秋田県教育庁特別支援教育課指導チームの先生方に感謝申し上げます。

校長 佐藤 圭吾

目 次

発刊に当たって	1
全校研究	3
学部研究	
小学部	11
中学部	17
高等部	22
寄宿舎研究	26
1年次のまとめ	30
資料・学習指導案	34
・資料1 観点点別学習評価表（学びの履歴シート）	
・資料2 個別の指導計画 様式	
・資料3 単元構想シート	
・資料4 単元構想シート（作業学習用）	
・資料5 年間指導計画【各教科等を合わせた指導】（素案）	
・学習指導案 小学部、中学部、高等部	
あとかき	57
研究同人	58

全校研究



研究主題 児童生徒の学びが「見える」授業づくり
 ー指導と評価の一体化による確かな成長を目指してー (1年次/2か年計画)

I 研究主題設定の理由

1 特別支援教育の動向から

学習指導要領の改訂により、知的障害特別支援学校の各教科等において各教科の内容や構成の充実が図られ、育成を目指す資質・能力を明確にして計画的な指導を行うことが示された。特別支援学校学習指導要領解説（各教科等編）では、各教科等を合わせて指導を行う場合も各教科等の目標を達成していくことや、各教科の目標に準拠した評価の観点による学習評価を行うことの必要性が明示された。学習評価については、特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料（文部科学省 2020）において、各学校にて「観点別学習状況の評価」を行うに当たっては観点ごとに評価規準を定める必要があることや、学習指導要領改訂の趣旨を実現するためには指導と評価の一体化の実現がますます求められていることが示されている。

2 これまでの研究から

本校では令和3年度と4年度の2年間、生活単元学習を対象に、指導計画の改善と学習活動の充実を目的とし研究を進めた。昨年度までの研究の成果と課題は表1のとおりである。

表1 昨年度までの研究の成果と課題

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・単元構想シートを使用し、単元で扱う各教科等の目標・内容を整理したことで、各教科等で育てたい資質・能力をより意識して指導を進められるようになった。 ・校内外の地域資源（「しらかみの恵み」）を生かした魅力ある学習活動の設定により、児童生徒の学習への意欲や期待感を高めることができた。 ・学習形態や学習展開の工夫、ICT機器の活用により、児童生徒が見通しをもち主体的に学習へ向かう姿を育むことができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生活単元学習において扱う各教科等の指導内容の選定の仕方や、学習活動の配列及び評価の在り方については、更なる検討が必要である。

これまでの研究により、指導計画や学習活動、児童生徒が主体的に学習に参加するための手立ての充実が図られた。しかし、生活単元学習における各教科等の目標・内容に基づいた単元構想の在り方や単元目標及び評価規準に関する検討は不十分であり、その方策や手順の確立を今後の課題とした。

3 学校の現状から（学校教育プラン及び学校経営の方針より）

本校には発達障害や肢体不自由のある児童生徒も在籍しており、一人一人の実態に応じた指導と指導方法の共有が必要とされる。児童生徒の学習履歴を踏まえ、入学から卒業まで一貫した指導を行えるよう教育計画や体制の整備も望まれる。授業づくりにおいては、的確な実態把握と明確な指導目標の設定及び学習評価による授業改善を今年度の重点として挙げている。

上記1から3の内容を踏まえ、学習指導要領に示された各教科等の目標・内容を計画的に指導し、児童生徒の資質・能力を確実に育むためには、学びを可視化しながら指導と評価の一体化を図ることが重要であると考え、本主題を設定した。

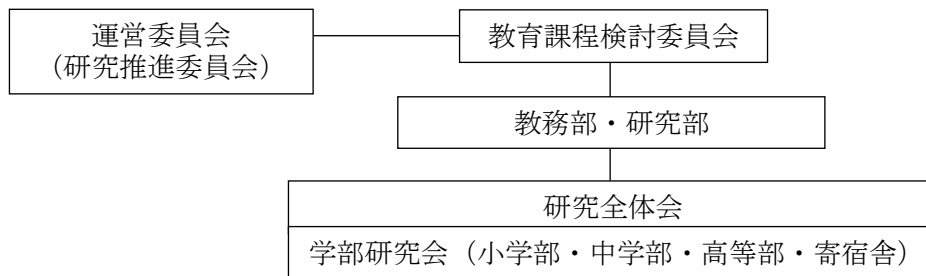
II 研究の目的

一人一人の学習状況を評価規準に基づいて的確に捉え、資質・能力を育むための授業づくりの在り方や効果的な指導方法を見いだす。

III 研究仮説

各教科等を合わせた指導において、各教科等の目標及び内容から育成する資質・能力を明らかにし、校内外の資源を活用した魅力ある単元を立案する。成長や変容を適切に評価し、授業場面における効果的な指導方法を共有しながら授業改善を図ることで、確かな成長を促すとともに、児童生徒が「何が身に付いたか」を実感し、より主体的に学習へ向かう姿を引き出すことができるであろう。

IV 研究組織



- ・教育課程検討委員会：校長、教頭、教育専門監、学部主事、主任寄宿舎指導員、分掌主任

V 研究内容

1 研究対象

研究対象は、各教科等を合わせた指導とする。指導の形態は各学部で選択する。今年度は、小学部及び中学部は生活単元学習、高等部は作業学習を対象とした。なお、高等部では一部生徒が介護職員初任者研修として福祉科を選択しているため、福祉科も対象と位置付けることとした。

2 研究内容・方法

(1) 研究の概要

研究主題に掲げた「見える」授業づくりについては、以下の四項目に概要を整理し(図1)、相互に関連付けながら研究を進める。各項目の内容は、次頁に示す。

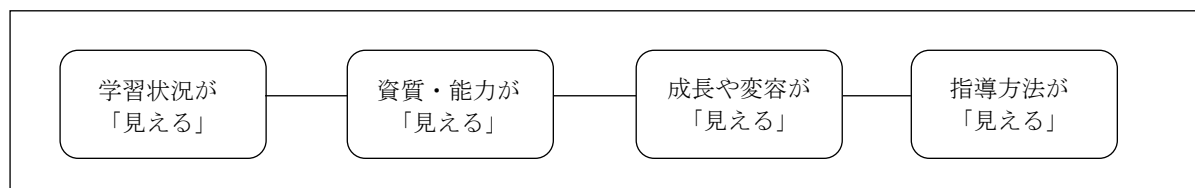


図1 児童生徒の学びが「見える」授業づくり

各項目の内容は以下の①から④を設定する。これらの内容を授業研究会や職員研修会等を通して実践検証する。

<p>①学習状況が「見える」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「観点別学習評価表（学びの履歴シート）」（以下「観点別学習評価表」と記載）を用いた児童生徒一人一人の学習状況の確認と個別の指導計画の作成 ※教務部と連携する <p>②資質・能力が「見える」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科等における育てたい資質・能力を明確に記した指導計画の作成 ・児童生徒の学習履歴や興味・関心、校内外の資源を生かした学習活動の設定 <p>③成長や変容が「見える」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一授業及び単元での成長や変容の姿と「観点別学習評価表」に示した項目を照らし合わせた評価の蓄積 ・学習のまとめや振り返り、次時への課題設定の工夫と充実 <p>④指導方法が「見える」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの研究における成果を生かした手立ての継続 ・ユニバーサルデザインの視点による、児童生徒の参加と学びを促すための指導方法の整理と共有
--

上記①、②、③の実践においては、観点別学習評価表を活用することで、実態把握・指導計画作成・目標設定・学習評価に一貫性をもたせる。授業場面においては、上記③、④を中心に指導の工夫を行い、各教科等の目標の達成と資質・能力の育成を目指す。

（２）各年次の研究内容・方法

各年次における研究内容（共通実践事項）とその方法を以下のとおり計画する（表２）。２年次の内容については、１年次の成果と課題を踏まえて修正や改善を検討する。

以下に示した内容を各学部の研究にて検討を重ねる。検討した内容は全校授業研究会や部内授業研究会で協議し、その成果と課題を踏まえて授業づくりの在り方や効果的な指導方法を探る。

表２ 各年次の研究内容・方法

	研究内容（○は年度の重点）	方法
1年次	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画に基づく、育てたい資質・能力の確認 ○単元で扱う各教科等の指導内容の選定と学習活動の配列に関する検討 ・手立ての工夫や指導方法の共有に向けた情報交換 	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別学習評価表の活用 ・単元構想シートを活用した単元検討会、授業研究会の実施 ・研修会の実施
2年次	<ul style="list-style-type: none"> ・単元で扱う各教科等及び各教科等の指導内容を明確に記した年間指導計画の作成 ・各教科等を合わせた指導における単元目標及び評価規準に関する検討 ・1年次の成果を踏まえた単元構想と授業改善 ・児童生徒の参加と学びを促すための指導方法の整理と共有（「能代スタンダード」の作成） 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画の様式改訂とその活用 ・単元検討会の実施 ・授業研究会の実施 ・学習会や検討会の実施

3 1年次の研究

(1) 年間計画

以下の研究年間計画に沿って研究を行う（表3）。研究全体会は年4回、学部研究会は月1回を基本とし、学部間や全校で内容を共有しながら実践を進める。なお、年次研修に係る授業研究会は授業力向上に向けた研修の機会と捉え、学部を中心に授業参観を行い各自の実践に生かす。

表3 研究年間計画

月	全校研究	学部研究	授業研究会 (全校授業研会・年次研修)
4	13日 研究推進委員会① ・研究案の検討 19日 研究全体会① ・研究概要の確認		
5	31日 研究全体会② ・研究内容、要点の確認 ・学部・寄宿舎研究の 重点共有	22日 学部研究会① ・取組内容の確認	
6		23日 学部研究会② ・単元検討①	6日 8年研授業
7	18日 指導主事計画訪問	26日 学部研究会③ ・単元検討②	14日 中堅研授業 20日 中堅研授業
8	2日 研究全体会③（研修会） ・ICT機器活用 ・指導方法の工夫	23日 学部研究会④ ・単元検討③ ・授業検討	
9		29日 学部研究会⑤ ・全校授業研の成果と 課題の共有 ・改善策検討	8日 全校授業研究会<中> (兼 5年研授業) 13日 学部内授業研究会<小> (兼 5年研授業) 19日 中堅研授業
10		25日 学部研究会⑥ ・単元検討④ ・授業検討	3日 中堅研授業 27日 2年研授業
11		24日 学部研究会⑦ ・全校授業研の成果と 課題の共有 ・改善授業検討(中高)	2日 全校授業研究会<高> (兼 2年研授業) 21日 全校授業研究会<小>
12		18日 学部研究会⑧ ・単元検討に係る要点 整理 ・授業実践のまとめ	14日 3年研授業 19日 学部内授業研究会 <高①>(兼 3年研授業) 19日 学部内授業研究会 <高②>(兼 中堅研授業) 22日 中堅研授業
1	12日 研究全体会④（研修会）	10日 学部研究会⑨ ・学部研究のまとめ ・次年度案の検討	
2	22日 研究推進委員会② ・次年度計画の検討	下旬 学部研究会⑩ ・学部研究のまとめ ・次年度案の検討	7日 中堅研授業 16日 中堅研 研究報告会
3	14日 研究全体会⑤ ・研究のまとめ ・次年度研究案の提示		

(2) 1年次の研究経過

ア 研究内容の理解と取り組むべき課題の確認

新たな研究を進めるに当たっては、その内容を理解しやすいよう、主題の「見える」授業づくりを四項目に整理するとともに、年度の重点を定めることで、研究として取り組むべき課題を的確に捉えられるようにした。また、研究全体会や学部研究会、職員研修会の機会に、知的障害のある児童生徒の教育的対応の基本や指導の形態、各教科等を合わせた指導の特徴と留意点、効果的な指導方法等、実践に係る基礎的事項を再確認した。基礎的事項に加え、研究の方向性や要点、先行研究や教育動向等、全校で共有すべき内容については、校長に講話を依頼したり、各教師の疑問等を整理したりして確認の機会を設けた。

イ 個別の指導計画に基づく、育てたい資質・能力の確認 [学習状況、資質・能力が見える]

児童生徒の学習状況や育てたい資質・能力の確認を行う際は、「観点別学習評価表」を活用した。※資料1 本校では、「観点別学習評価表」に示した各教科の評価規準（【参考】）を、学部段階で身に付ける資質・能力と捉えることとし、その中から年度で育てたい資質・能力を選び集約したものを「個別の指導計画」の一部として扱っている。※資料2 特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料（文部科学省 2020）に示されているように、各教科の評価規準を個別の指導計画の作成に活用したことで、児童生徒一人一人の指導目標や指導内容が明確化された。各学部ともに、個別の指導計画の内容、すなわち、各教科で育てたい資質・能力を確認し、対象児童生徒全員の指導段階や指導内容を教師間で共有しながら、単元で育てたい資質・能力の検討を進めることができた。

【参考】「観点別学習評価表」に示した各教科の（評価規準） ※様式は資料1参照

< 中学部 理科 1段階 > ※内容の一部を抜粋

資質・能力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む姿
生命	植物や動物などの生き物は、色、形、大きさなど、姿に違いがあることを理解し、初歩的な観察、実験などの技能を身に付けている。	栽培や飼育などを通して、身の回りの生物について調べ、差異点や共通点に気づき、生物の姿についての疑問をもち、表現しようとしている。	生物の姿の違いに関心をもち、観察、実験などの学習に積極的に取り組もうとしている。
	昆虫や植物の育ち方には一定の順序があることを理解し、初歩的な観察、実験などの技能を身に付けている。		生物の育ち方に関心をもち、観察、実験などの学習に積極的に取り組もうとしている。
地球・自然	日陰は太陽の光を遮るとできることを理解し、初歩的な観察、実験などの技能を身に付けている。	日なたと日陰の様子について調べる中で、差異点や共通点に気づき、太陽と地面の様子との関係についての疑問をもち、表現しようとしている。	太陽と地面の様子との関係に関心をもち、観察、実験などの学習に積極的に取り組もうとしている。
	地面は太陽によって暖められ、日なたと日陰では地面の暖かさに違いがあることを理解し、初歩的な観察、実験などの技能を身に付けている。		

< 高等部 職業科 1段階 > ※内容の一部を抜粋

資質・能力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む姿
職業生活	勤労の意義（※）を理解している。 ※生計を維持するだけでなく、働くことで自己実現を図る。能力や適性を発揮し社会の一員として役割を果たすために仕事に励む大切さを理解すること。	意欲や見通しをもって取り組み、その成果や自分と他者との役割及び他者との協力について考え、表現している。	作業や実習等に達成感を得て、計画性をもって主体的に作業に取り組もうとしている。
	職業生活に必要な実践的な知識（※）が身に付いている。 ※様々な職場やそれぞれが果たす役割、仕事内容、職場の組織、労働と報酬の関係、労働条件など	職業生活について調べ、職場見学や現場実習等を通して知ったことを整理するなどして、職業教育に必要な事柄をまとめ、表現している。	職業生活に必要な知識に関心をもち、積極的に学習に取り組もうとしている。
	職業生活に必要な基本的な技能や態度（※）が身に付いている ※円滑な仕事、標準的な動作の遵守、正確な作業の継続、作業目標を意識した積極的な取組、他者との協力、服装・動作・挨拶や適切な言葉遣いなど	作業や実習における役割を踏まえて、自分の成長や課題について考え、表現している。 職業生活について調べ、職場見学や現場実習等を通して知ったことを整理するなどして、職業教育に必要な技能や態度をまとめ、表現している。	職業生活に係る自分の成長や課題に関心をもち、積極的に学習に取り組もうとしている。 職業生活に必要な実践的な技能や態度に関心をもち、積極的に学習に取り組もうとしている。

ウ 単元で扱う各教科等の指導内容の選定と学習活動の配列に関する検討〔資質・能力が見える〕

単元を通して各教科等の資質・能力を確実に扱えるよう、指導内容の選定、学習活動の配列、単元目標の設定までの流れは、今年度の重点として検討した。検討の過程は、各学部の実践の頁に記載する。

①単元構想シートの作成

昨年度までの研究成果から、単元構想では「単元構想シート」の活用が有効であったことから、本研究においても単元構想シートを用いることとした。様式は、検討すべき内容を焦点化できるよう先行研究を参考に項目を整理し「R5試案 各教科等を合わせた指導単元シート（構想）」を作成した。※資料3

高等部では、構想した内容をシートに記載する過程で、シートの様式の使いやすさが課題となった。単元全体をよりイメージしやすいよう、学部職員の意見を参考に、指導の形態の特徴に即したシートの構成や項目を考え、様式を再考案した。※資料4

②単元で扱う各教科等の指導内容の選定

- ・各教科等を合わせて指導を行う場合においても、各教科の目標を達成していくことになり、育成を目指す資質・能力を明確にして指導計画を立てることが重要である。
- ・生活単元学習では、広範囲に各教科等の目標や内容が扱われる。
- ・作業学習は、高等部では職業科、家庭科及び情報科の目標及び内容が中心となる。

特別支援学校学習指導要領解説（各教科等編）小学部・中学部より引用

本校では、各教科等を合わせた指導において、各教科等の資質・能力を確実に育てられるよう、上記の学習指導要領解説に示されている内容を確認した上で、単元で扱う各教科等は「単元で扱う主な各教科等」とし、精選して選定することとした。

生活単元学習を対象とした小学部、中学部では、教科別の指導の時間を設けていない生活科、図画工作科、理科、社会科、職業・家庭科を中心に、各教科で育てたい資質・能力を整理しながら、生活単元学習での指導が効果的であると見込まれる指導内容を選定した。作業学習を対象とした高等部では、年間の作業活動に基づき、職業科の指導内容を再整理しながら、作業学習での指導が効果的であると見込まれる指導内容を選定した。高等部では、各班の作業種に関連する各教科等の指導内容も併せて整理し、扱う指導内容の過不足等についての確認を行った。

③学習活動の配列

単元構想では、前述した指導内容の選定と同時に、児童生徒が学習に意欲をもち主体的に学べるよう、魅力ある学習活動の内容を検討した。学習指導要領解説（各教科等編）に示された「知的障害のある児童生徒の教育的対応の基本」や「各教科等を合わせた指導の特徴と留意点」を参考に、これまでの学習履歴や生活経験、児童生徒の興味・関心や課題、集団としての特徴等を考慮し、各教科等で育てたい資質・能力を身に付けるために適した学習活動は何かを検討した。また、昨年度の研究成果であり、本校の学校教育プランとして示されている校内外の地域資源を活用した学習活動の取り入れも検討し、魅力ある学習活動の設定や配列に努めた。

④指導内容と学習活動を踏まえた指導計画及び単元目標の在り方の検討

指導内容の選定と学習活動の配列は、相互に関連付けながら検討を進めた。検討した内容を単元化し、指導計画を作成する際には、各教科等を寄せ集めた学習とにならないことや、児童生徒が各教科等の学びを実感する場面を設定することなどに留意した。

単元目標は、観点別学習評価表を参考に、三つの資質・能力の関係に則して設定することと、単元で扱う複数の各教科等の目標・内容と学習活動を包括させ、全体目標として一本化することを基本とした。設定の過程では、一つの文章にまとめることの困難感や、異なる複数の指導内容を全体目標としてまとめることが妥当かどうかという問いも生じた。

⑤全校体制での授業実践（全校授業研究会の実施）

各学部で設定した単元の指導内容や学習活動は、全校授業研究会を通して更に検討を重ねた。今年度は全校体制での授業改善を目指し、協議題は「育成したい資質・能力を身に付けるための単元づくりと指導の在り方」に全校で統一した。また、協議の視点は今年度研究内容に即して2点設定した（表3）。なお、視点②「指導の工夫」については、授業改善の視点である「主体的・対話的で深い学び」の中から、授業者が特に力を入れた内容を示すことで、具体的な改善案を得られるようにした。

表3 全校授業研究会での協議の視点（第1回の資料から）

視点①「単元づくり」	視点②「指導の工夫」
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導内容の選定 ・ 学習活動の内容や配列 ・ 魅力ある単元 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; width: fit-content;"> 育成したい資質・能力を単元の中にどう組み込むか。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標を達成するための活動内容、展開、グルーピング（ペア活動） ・ まとめや振り返り、次時への課題設定 ・ 個への配慮（自立活動の視点から） ・ ティーム・ティーチングや環境設定、教材・教具 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; width: fit-content;"> 「対話的な学び」の実現に向けてどのような工夫が必要か。 </div>

全校授業研究会では、秋田県教育庁特別支援教育課の指導主事3名に指導助言を依頼した。各回の授業研究会で挙げられた成果と課題、指導助言の内容は、学部を越えて必要な事項を取り入れながら年間の実践を進めた（図2）。全校授業研究会の概要については各学部の実践の頁に記載する。

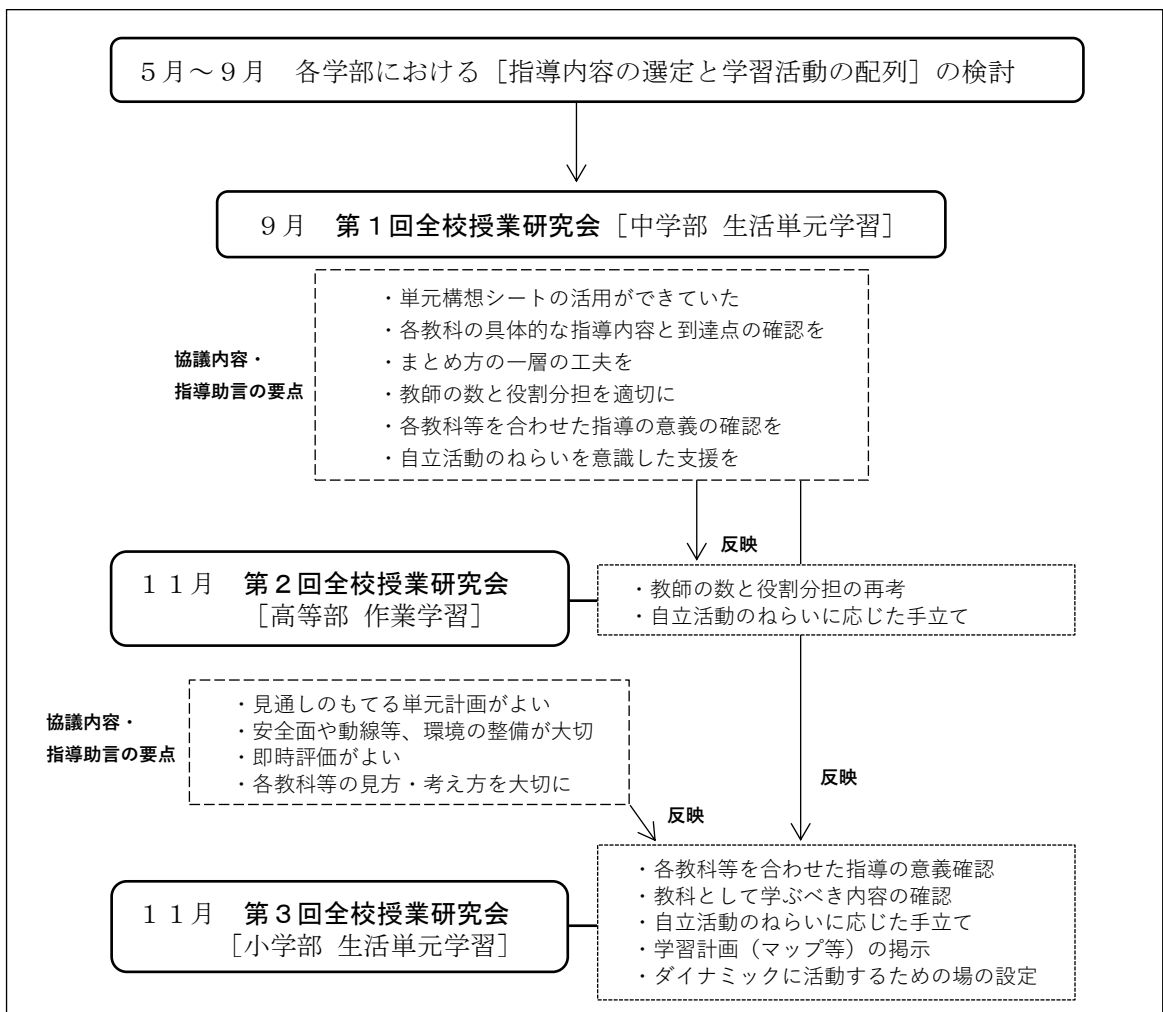


図2 全校体制での授業実践

エ 手立ての工夫や指導方法の共有に向けた情報交換 【指導方法が見える】

授業時の環境設定や個別の手立て等、指導の工夫に係る内容については、全校授業研究会や学部内授業研究会の協議で取り扱ったことで、定期的な意見交換がなされた。このうち、全校授業研究会で挙げられた指導方法に関する意見は別途で集約し、「能代スタンダード」の項目案として取り入れることとした。「能代スタンダード」の内容及び項目案は図3に示す。

研究を推進する上で課題となる事柄については、各学部で内容を定めて検討した。小学部では各学年の生活単元学習の指導の工夫に関する情報交換、中学部では単元の評価に関する検討、高等部ではまとめや振り返りの充実を目指したデジタル作業日誌の検討等、指導の充実に向けた取組を行った。具体的な内容は学部の実践の頁で述べる。

長期休業中には、教務部と連携したICT機器の活用（教材・教具の工夫）に関する研修会や、ティーム・ティーチング（指導方法の工夫）に関する情報交換会も実施した。

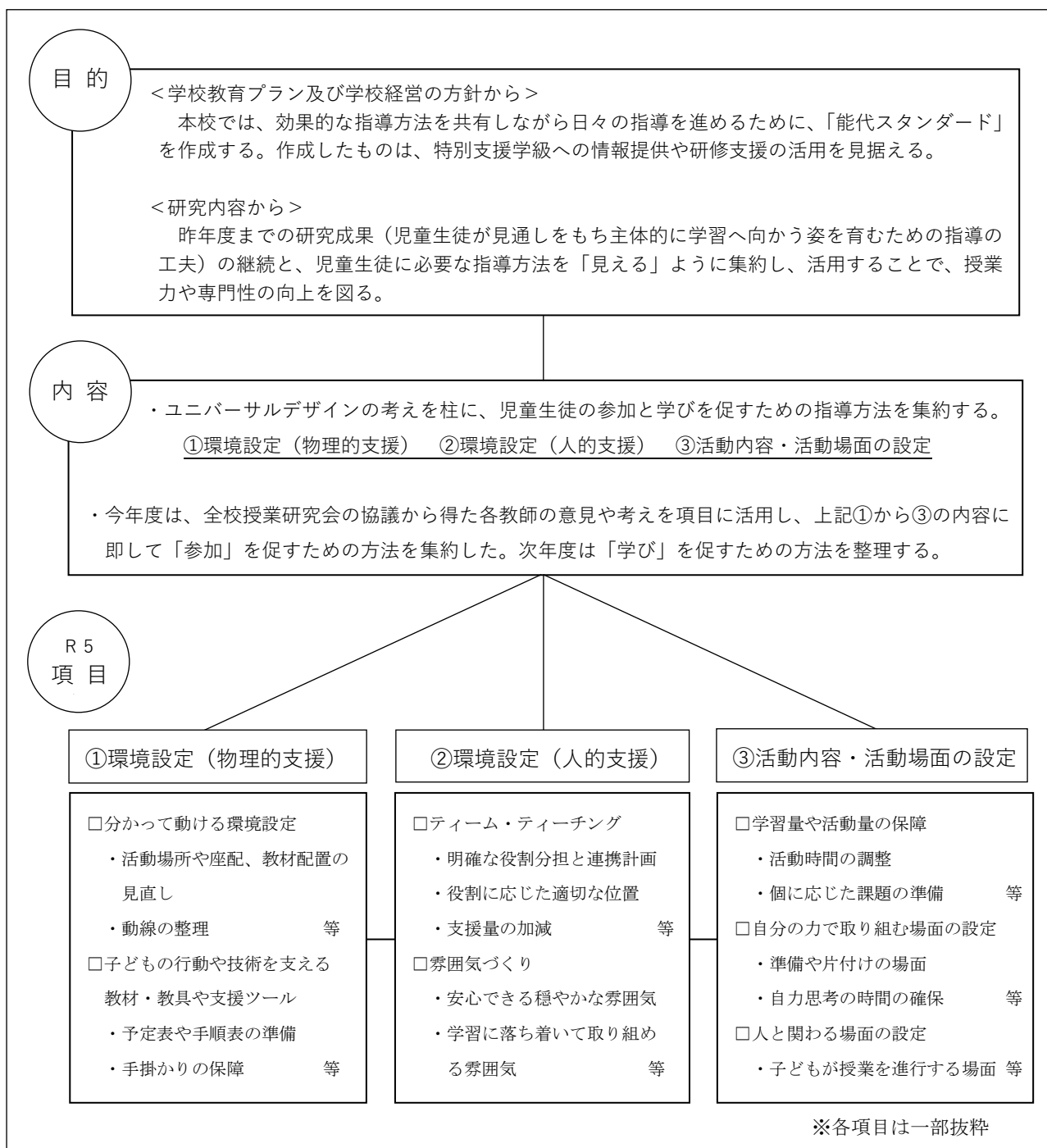


図3 「能代スタンダード」について

学部研究



I 学部研究の取組

1 研究の概要

(1) 研究対象と研究グループ

- ・今年度、小学部では生活単元学習を研究対象とし、3年と5年の授業づくりに取り組んだ。
- ・研究グループは低学年グループ（1～3年）と高学年グループ（4～6年）の2つとし、内容に応じて学部全体やグループでの検討を行った。

(2) 研究内容

今年度の取組内容と実施時期は以下のとおりである（表1）。

表1 小学部の取組内容と実施時期

時期	内容
5月～6月	・共通実践 [今年度の生活単元学習で育てたい資質・能力の整理と共有] ・学部実践 [単元設定に係る考え方の共有]
7月	・共通実践 [指導内容の選定と学習活動の配列に関する検討①] ・学部実践 [手立ての工夫や指導方法の共有に向けた情報交換（生活単元学習を見合う会）]
8月	・共通実践 [指導内容の選定と学習活動の配列に関する検討②]
9月	・学部内授業研究会（5年）
10月	・共通実践 [指導内容の選定と学習活動の配列に関する検討③]
11月	・全校授業研究会（3年） ・全校授業研究会のまとめ
12月	・共通実践 [年間の指導内容と学習活動の配列に関する検討]
1月～2月	・研究のまとめ

2 研究の経過

(1) 共通実践

ア 今年度の生活単元学習で育てたい資質・能力の整理と共有

小学部では、一人一人の育てたい資質・能力を年間通して段階的・計画的に指導することができるよう、年度の生活単元学習において育てたい資質・能力を研究グループごとに整理し、学部全体で共有した。また、年間指導計画と学習指導要領解説各教科等編の目標・内容の一覧を照らし合わせ、主に扱う各教科と指導内容も整理した。高学年グループの検討では、児童によっては個別の指導計画に追加が必要な資質・能力があることを確認した。各研究対象学年において整理した年度で扱う内容やその際に挙げられた意見は、次頁表2のとおりである。

表2 今年度の生活単元学習で主に扱う各教科と指導内容

低学年グループ（3年）	高学年グループ（5年）
<p>○年度で扱う指導内容</p> <p>生活科～日課・予定、遊び、人との関わり、役割、きまり、生命・自然、ものの仕組みと働き</p> <p>国語科～聞くこと・話すこと</p> <p>算数科～数量の基礎、数と計算、図形、測定</p> <p>図画工作科～表現</p>	<p>○年度で扱う指導内容</p> <p>生活科～遊び、人との関わり、役割、手伝い・仕事、社会の仕組みと公共施設、生命・自然</p> <p>図画工作科～表現</p>
<p>○意見</p> <p>研究対象の単元では、自分たちで遊ぶおもちゃ作りから発展して、友達を招待して役割を果たすことやきまりのある遊びについて取り上げたい。</p>	<p>○意見</p> <p>単元構想では分担して取り組んだり、安心して取り組んだりすることを大切にしたい。</p>

イ 単元で扱う各教科等の指導内容の選定

研究対象の単元で扱う各教科等の指導内容について、前単元までに身に付いた力などの学習履歴を踏まえながら、単元構想シートを用いて、適切な内容は何かを検討した。単元を通して育てる資質・能力を一人一人の児童について確認し取り組んだが、扱う各教科等の指導内容や学習活動を検討する中で、単元を通して育てる資質・能力の見直しや絞り込みを行った。

9月に実施した学部内授業研究会（5年「オリジナルゲーム大会をひらこう」）の単元設定における第1次検討案では、生活科について主に扱う指導内容を四つ（人との関わり、役割、手伝い・仕事、生命・自然）選定した。検討の過程では、児童で役割分担してゲームを完成させるという学習活動や、児童が自らの役割が分かって主体的に行動するための教材・教具、環境設定の必要性が話題の中心となった。そこで、単元の目標を焦点化し、主に扱う指導内容を「役割」の一つに絞った。目標や指導内容が焦点化されたことで、手立ても更に明確になった。事後研究会では、一つの単元で多くの指導内容を扱うことは難しいのではないかとということ、単元のどの部分で何の指導内容を扱うかを明確にすることが大切だということを共有した。これらの学部内授業研究会での取組を11月の全校授業研究会の単元構想に生かした。全校授業研究会の取組の詳細については、後述する。

ウ 年間の指導内容の選定と学習活動の配列に関する確認

各教科等で育てたい資質・能力を確実に育むために、今年度の研究対象である生活単元学習の各単元について、観点別学習評価表と年間指導計画を照らし合わせながら、各学年で主に扱った指導内容を再確認した。学部で毎年実施している単元（宿泊学習等）は、各教科等の指導内容を多岐に扱っていることを確認した。また、校地内の自然を生かした「思い出の森」の活動、近隣小学校との交流学习、さつまいもの苗植えや収穫を中心とした近隣施設との交流学习等、学部合同で実施している単元についても、今年度の実践の中で取り扱った指導内容を確認した。これらについては学年に応じて指導内容を更に精選するなど、整理が必要であることを共有した。

(2) 学部の実践

ア 単元設定に係る考え方の共有

児童の興味・関心に基づいたテーマや活動を設定するとともに、昨年度までの小学部研究の成果から、地域あるいは校内の人（公共施設の職員、他学年の友達、担任以外の職員等）と直接関わり評価を受ける経験を積み重ねることが、児童の意欲や期待感を高め、主体的に学習する姿に結び付いていることを学部全体で確認した。また、児童がこれまでに身に付けた力を生かしながら活動することが、見通しや安心感をもって学習することにつながることも確認した。これらを踏まえ、各学年におけるこれまでの生活単元学習の学習内容や児童が身に付けてきた力を共有し、今年度の単元を構想することとした。単元設定に向けて研究グループごとに共有した内容は以下のとおりである（表3）。

表3 単元設定に向けて共有した内容

低学年グループ（3年）	高学年グループ（5年）
<ul style="list-style-type: none">・児童はいろいろなことに興味をもっており友達のしていることを自分もしてみたい、まねたいと思っている。1・2年生の作った遊び場に招待され、自分たちも遊び場を作って友達を招待したいという気持ちをもっており、それを生かした単元にしたい。・自分で対象物を操作し、変化を実感できるような学習活動を設定したい。	<ul style="list-style-type: none">・児童の興味・関心が高い内容を取り上げ、楽しんで取り組むことができるようにしたい。・分担して完成させ、達成感を味わうことができる単元にしたい。繰り返しの活動の中で作るものをバージョンアップさせたい。・身近な人に感謝される経験を増やしたい。・安心して取り組むこと（自立活動の視点）を大切にしたい。

イ 手立ての工夫や指導方法の共有に向けた情報交換（生活単元学習を見合う会の実施）

昨年度の学部研究のまとめにおいて「各学級の生活単元学習を見合う機会がほしい」というニーズが挙げられていたことから、夏季休業中に「生活単元学習を見合う会」を実施した。4～7月の期間に実施した各学年の単元を取り上げ、環境設定や教材・教具等の工夫について紹介し合った。児童の様子に関して、調理したものを食べた感想を述べる際に絵カードを選出し伝えることができた、手順を絵や写真カードで黒板に横方向に示すとともに使用する道具等も同じ方向に配置したことで、自分で順に必要な道具を取りに行くことができた、などの情報共有ができた。会で挙げられた意見と様子を表4に示す。

表4 「生活単元学習を見合う会」の意見と様子

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・板書や教材・教具などの指導の工夫を知り、勉強になった。・児童が自分で行動するための工夫を知ることができた。・めあての提示と振り返りの仕方が参考になった。・担当教師間で児童の育てたい資質・能力を明確にして指導することが大事だと改めて感じた。 |
|---|



小学部3年 生活単元学習

単元名「ようこそ さんさんらんどへ② ～はこでつくろう ぼくらのまち～」

1 授業づくりの経過

(1) 単元設定(単元構想から単元目標設定までの経過)

研究対象授業の3年生活単元学習については、単元構想シートを活用しながら、学部全体で授業づくりに取り組んだ。

はじめに、今年度の生活単元学習で育てたい資質・能力を確認し、主に扱う各教科と指導内容を前述表2のとおり整理した。次に、全校授業研究会の提示単元について検討した。第1次検討案では、単元で扱う主な各教科と指導内容を生活科二つ(人との関わり、ものの仕組みと働き)、算数科二つ(図形、測定)とした。検討を重ねる中で、「箱を使っていろいろな遊びをし、時間によって教師が段階的に課題を示すことで、学んだことを生かし発展させながら活動を繰り返し、学習内容の習得・定着を図ってはどうか」、また、「友達を招待することが初めてなので、自分たちが十分に遊んで楽しさを味わった上で招待する活動を設定するのがよいのではないか」などの意見が挙げられた。そこで、指導内容は、生活科2段階(人との関わり)、算数科2段階(測定)に焦点化し、単元の目標を再検討した。単元目標の設定では、生活科と算数科の二教科で育てたい資質・能力と学習活動をどのように組み込んで一文として書き表すかが難しく、何度も繰り返し検討を重ねた。

(2) 指導の工夫(各教科等を踏まえた学習活動や手立て)

- ①小学部算数科2段階C測定の目標を踏まえ、長さや高さの量の大きさについては、様々な感覚を使い実感しながら学ぶことができるよう、さんさんらんどを作る活動の前に、箱を使って存分に遊ぶ活動を設定した。その際、積む、並べる、置く向きを変えるなどの操作を自分で行いながら箱の辺の長さや積み重なった高さを意識できるように、様々な大きさの箱を用意した。場面を捉えて「長いね」「高いね」と伝え、「長い」「高い」などの用語をカードにして掲示した。長さや高さについて、授業の途中で、個別にあるいは全体で確認する場面を設け、カードは振り返りでも用いた。またさんさんらんどを作る活動では、高く積み上げるなどの時間毎のめあてを示し、見本を用意した。下学年を招待する活動では、長さや高さについて友達に伝えることで更に用語の理解が促されるように、工夫した点や遊び方を紹介する場面を設定した。
- ②小学部生活科2段階オ人との関わり目標を踏まえ、関わりを広げ、その際の適切な伝え方を学ぶことができるように、友達や教師と一緒に箱を積み上げたり、作ったものを見合ったりした。また、前単元までの児童の実態、興味・関心を踏まえ、下学年(小学部1・2年生)の友達を招待する活動を設定した。コミュニケーションへの意欲を更に高め、経験したことを伝えようとしたり、人と適切にかかわる経験を積み重ねたりすることができるように、一緒に遊び、遊び方を紹介した。
- ③自立活動の視点から、学習活動の流れは一定にし、単元や本時の活動に見通しをもつことができるように、さんさんらんどのマップや本時で作る物の見本を用意した。また発話の少ない児童も学んだことや気持ちを表すことができるように、選択できる絵カードを用意した。

2 授業研究会から

主な協議内容と指導助言について、表5に示す。


表5 第3回全校授業研究会の主な協議内容と指導助言（○：成果 ●：課題）

協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ○魅力ある単元。時間いっぱい生き生きとした活動 ○高さの目標となる見本の工夫 ○積み上げ方を工夫してより高いタワーを作るための手立て ○学んだことや工夫したことを伝えるためのカード等の効果的な活用 ●教科の視点での成長、変容。「分かった」と実感できる単元づくり ●教科別の指導との関連の確認 ●振り返りの工夫(写真や動画等で高さを比べる様子や試行錯誤の様子を振り返る)
指導助言者	秋田県教育庁 特別支援教育課 主任指導主事 小野武則 氏
助言内容	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等を合わせた指導について、各教科等の目標・指導内容を明確に示していくということに踏み込んで取り組んでいる。資質・能力を一層確実に育成するということを意識したい。 ・単元づくりについては、教科別の指導や、生活単元学習以外の各教科等を合わせた指導との関連付けが大事である。どの教科で何を扱うか、教科別の指導で扱った内容を、各教科等を合わせた指導でどう関連付け指導の効果を高めていくかなど、教育課程全体を「見える」状況にする必要がある。 ・授業については、単元の目標が知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等の三つの柱でしっかり考えられている。主に扱う教科等ではなくても、関連付けて扱う教科は多岐にわたる。生活単元学習として、教科の内容を意識しすぎることによって学習の流れが不自然になったり、実生活からかけ離れた内容になったりしないようにしたい。

3 児童の成長や変容

提示授業および単元全体を通して見られた児童の成長や変容は以下のとおりである（表6）。

表6 児童の成長や変容

<ul style="list-style-type: none"> ・はじめはただ箱を積み上げることを楽しんでいましたが、自分で箱のどの面を下にして積むかを考えて積むようになった。「高く積み上げる」というめあてを理解し、見本と自分のタワーを見比べながら手の届かないところにも積もうとした。 ・はじめは自由に積み上げていた段ボールを、大きいものから積み重ねると倒れずに高く積み上げられることに気付いて重ねるようになった。 ・「高い」という言葉を日常生活でも使うようになった。 	
<p>〈見本と見比べながら箱を高く積む様子〉</p>	

- ・要求や依頼を伝えることができるように、箱を高く積むために巧技台などの道具を児童数名で共有した。友達が使用している様子を見て、教師に指さしで使いたいと伝えたり、友達に「貸して下さい」「ありがとう」と身振りで伝えたりし、友達や教師に要求や依頼を伝えることが増えた。
- ・普段の学習場面では自分一人や学級の友達と二人で思うように遊ぶことが多かったが、1・2年生の友達と一緒に遊ぶということが分かって誘い掛けたり、自分たちが作ったことを紹介したりし、友達と関わる機会が増えた。
- ・振り返り場面では、自分が頑張ったことに合う絵カードを選び、友達に伝えることができた。



〈1・2年生に誘い掛ける児童〉

Ⅲ 学部研究のまとめ

1 単元で扱う指導内容の焦点化による手立ての具体化について

学部内授業研究会と全校授業研究会の2回の授業づくりを通して、生活単元学習で広範囲に扱う各教科等の中から、主に扱う各教科等の目標や指導内容を焦点化し、単元の目標を明確にして手立てを検討するというプロセスに、学部職員全員で取り組むことができた。単元の目標が明確になることで手立ての具体化が図られ、児童の成長や変容につながったことが成果である。一方で、単元の目標においては、各教科等の複数の指導内容と学習活動を一文の中に組み込みながら、学習指導案上にどう書き表すか、その表記が難しく、検討する時間を要した。

2 指導内容の選定と学習活動の配列について

個別の指導計画に基づき、単元を通して育てる資質・能力を選定して単元を構想していくことと、年間または小学部6年間を通して各教科等の指導内容を確実に扱うことについての理解が深まり、単元設定に生かすことができるようになってきた。ただ、児童によっては、指導内容に基づいて指導はするが、継続して指導が必要であったり、習得が難しかったりする場合がある。選定した指導内容を継続して指導する必要があるかどうかや、いつ何をどの程度学んだかが分かるような学習履歴の表し方ができるとよいのではないかとの意見も挙げられた。生活単元学習以外の各教科等を合わせた指導や他教科を含めて、今後は年間指導計画を活用しながら指導内容を整理し、評価、改善を重ねながら実践を進めたい。

I 学部研究の取組

1 研究の概要

(1) 研究対象と研究グループ

- ・今年度、中学部では生活単元学習を研究対象とし、2年の授業づくりに取り組んだ。
- ・研究グループは学部全体とし、内容に応じて各学年やグループでの検討を行った。

(2) 研究内容

今年度の取組内容と実施時期は以下のとおりである（表1）。

表1 中学部の取組内容と実施時期

時期	内容
5月～6月	<ul style="list-style-type: none"> ・共通実践 [個別の指導計画に基づく育てたい資質・能力の確認] ・共通実践 [指導内容の選定と学習活動の配列に関する検討①] ・学部実践 [「しらかみの恵み」を生かした魅力ある単元設定]
7月～8月	<ul style="list-style-type: none"> ・学部実践 [資質・能力を育むための指導計画と学習活動の検討①]
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・全校授業研究会（2年） ・全校授業研究会のまとめ
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・学部実践 [単元の評価についての検討①]
11月～ 12月	<ul style="list-style-type: none"> ・共通実践 [指導内容の選定と学習活動の配列に関する検討②] ・学部実践 [資質・能力を育むための指導計画と学習活動の検討②]
1月～2月	<ul style="list-style-type: none"> ・学部実践 [単元の評価についての検討②] ・中学部研究のまとめ

2 研究の経過

(1) 共通実践

ア 個別の指導計画に基づく育てたい資質・能力の確認

5月に、観点別学習評価表から一人一人の個別の指導計画を作成し、学級担任間で見合った。その上で、今年度における各学年の生活単元学習の中で育てたい資質・能力を検討した。特に、教科別の指導の時間を設けていない社会科、理科、職業・家庭科に関する資質・能力については観点別学習評価表を参考に、各内容のまとめりや指導段階での内容の違いを整理・共有しながら、各学年の年間指導計画の作成にも反映させた。

イ 指導内容の選定と学習活動の配列に関する検討

7月に各学年で一単元を取り上げ、「単元構想シート」を参考にしながら単元構想を行った。各学年の生活単元学習の中で育てたい資質・能力から、単元の中で育成する資質・能力を絞り、生徒の実態やこれまでの学びの履歴を踏まえて、単元で扱う各教科等の指導内容を選定するという単元構想の流れを確認した。

研究対象である2年の単元設定については、次頁Ⅱ―(1)に詳細を示す。また、1年の単元設定においては、9月の第1回全校授業研究会の成果と課題を学部職員全員で共有し、実施単元に関する単元目標と指導計画の検討を行った。検討を通して、一単元のみで取り扱う指導

内容と、他の単元や題材でも継続的に取り扱う必要のある指導内容があり、それらを考慮しながら単元の指導内容を絞ることが重要であると確認することができた。

学習活動の配列に当たっては、単元を通して育てたい資質・能力を踏まえ、指導計画立案の際に検討した。選定した指導内容をいつ、どのように扱うのかについて確認しながら、小単元の学習活動の内容を設定した。また、評価の観点である「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に向かう態度」との関連性を考えながら工夫して配列した。

(2) 学部の実践

ア 校内外の地域資源（「しらかみの恵み」）を生かした魅力ある学習活動の設定

中学部では、昨年度の研究成果である地域の素材や人材などの地域資源「しらかみの恵み」の活用について、今年度も各単元の学習活動として取り入れることにした（表2）。今年度も継続することで前年度の学習を深められ、また、学部統一で地域に関する内容を取り上げることで学年を越えた学び合いや地域理解を深められると考えた。生徒の興味・関心と、地域から学ぶ活動、地域に貢献する活動を取り入れ、魅力ある学習活動の設定を図った。

表2 今年度の各学年の単元名と主な学習活動

学年	単元名	主な学習活動
1年	いい湯だな♪中1	能代山本地区の温泉の体験と紹介
2年	中2宇宙のまちづくりプロジェクト	「宇宙のまち・能代」を理解するための体験や制作活動
3年	中3お茶プロジェクト	檜山茶のPR活動

イ 資質・能力を育むための指導計画と学習活動の検討

研究対象である2年の単元については、7月に学部全体で指導計画と学習活動の検討を行った。宇宙に関する3つの野菜（宇宙アサガオ、UFOピーマン、宇宙いも）を題材に、繰り返しの学習活動を設定することで、生徒が成果を積み重ねられるようにした。中学部では1年、3年も繰り返しの学習活動を設定している。学部研究会の協議では、実践している学年から、中間の評価をもらうことが有効であるとの意見が挙げられたことから、その工夫を取り入れ、生徒が学びを実感する機会を設定することとした。

また、全校授業研究会の成果を生かし、年度末には、社会科や理科等の各教科の指導内容の更なる取扱いについて検討した。1・2年合同で実施している宿泊学習の事前学習の単元をピックアップし、各学年や合同で扱う指導内容、実施する学習活動の再確認を行った。学部職員全員で、育みたい資質・能力から単元の内容を考えたことで、これまでの年間指導計画の内容を見直すことや必要な学習活動を具体的に設定することの必要性を確認できた。

なお、学習活動については、学部職員による授業のロールプレイを通して、特に導入とまとめについて整理したことで、育てたい資質・能力を踏まえた授業の展開を考えることにつながった。

ウ 単元の評価についての検討

2年の単元設定では、「観点別学習評価表（学びの履歴シート）」の評価規準を参考に、単元で扱う社会科と理科の指導内容と学習活動を組み合わせて単元目標を設定した。評価は、単元目標の評価のほか、社会科と理科のそれぞれについての観点別学習評価を行った。教科ごとに分けて評価すると、生徒の学びを具体的に確認できることを共有した。

10月には各学年の生活単元学習で実施した単元の評価を行った。中学部では、単元で取り扱う一人一人の各教科等の目標・内容について、「◎達成」「○一部達成」「△指導の工夫が必要」

の三段階で評価することとした。評価に当たっては、個別の指導計画との関連を踏まえながら、学部合同の学習発表の機会、保護者や地域の方への発表の機会等を評価場面と捉え、生徒の学習成果物や生徒自身の振り返りの内容を基に評価した。評価の検討を通して、一単元のための指導で育成したい資質・能力が身に付いたと評価できるか難しい指導内容もあることに気付いた。

II 授業づくりの実際 [第1回 全校授業研究会 概要] ※学習指導案は、資料の頁に掲載

中学部2年 生活単元学習
 単元名 「中2宇宙のまちづくりプロジェクト
 ～能代支援学校産「宇宙の植物」を発信しよう!～」

1 授業づくりの経過

(1) 単元設定 (単元構想から単元目標の設定までの経過)

提示授業である2年生活単元学習については、学部全体で授業づくりに取り組んだ。生徒にとって興味・関心の高い活動や役割のある活動を取り入れながら、単元や授業を通して育てたい資質・能力を明確にして授業を進めるための工夫について検討を重ねた。

2年生の実態を基に育成したい資質・能力を「観点別学習評価表(学びの履歴シート)」から選定した。単元構想の段階では、選定した指導内容が国語、数学、社会、理科、美術と多かったが、一単元の中で育成したい資質・能力について協議する中で、能代市の宇宙に関するまちづくりを通して地域の様子を知る、観察や実験を通して共通点、差異点等の分かったことを伝える、という二つが主な資質・能力であると整理し、社会、理科に絞った。焦点化を図ることで、単元の目標が明確になった。

(2) 指導の工夫 (各教科等を踏まえた学習活動や手立て)

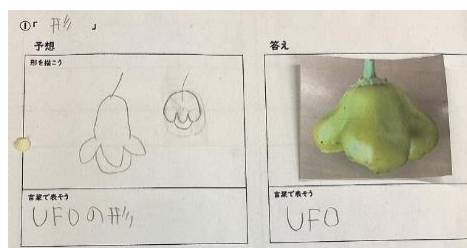
① 中学部社会科1段階ア社会参加ときまりの目標を踏まえ、能代市の取組と現在の自分たちの学習が関連していることが分かるように、地域おこし協力隊や能代市子ども館とのやりとりを行う活動を展開することとした。また、学習における自分の役割が分かって表現できるように、「育ち方」「色」「断面」などの既習事項に基づいた担当を定め、分かったことをまとめ、伝える場面を設定した。

② 中学部理科1段階A生命ア身の回りの生物の目標を踏まえ、アサガオやピーマン、芋の観察を行う中で昨年度の学習内容の定着を目指すこととした。予想する→比較・観察する→気付いたことをまとめる、という流れを繰り返し設定することで、差異点や共通点に気付く力や、関心や疑問をもって学習に取り組む姿勢を育めるようにした。

また、昨年度の研究成果を生かし、観察記録や地域での校外学習の様子はタブレット端末に保存し、生徒・教師全員で共有できるようにした。Google Jam ボードやKeynote を活用し、考えを共有する場面を設定したことで、意欲的に意見を出し合う様子が増えてきた。



(自分の役割が分かるための導入)



(「予想→比較・観察」のためのワークシート)

2 授業研究会から

主な協議内容と指導助言については以下のとおりであった（表3）。

表3 第1回全校授業研究会の主な協議内容と指導助言（○：成果 ●：課題）

協議内容	<p>○地域を取り入れた題材であり、生徒は興味・関心をもって取り組んでいた。</p> <p>○社会科や理科を生活単元学習で扱うことで、効果的に学ぶことができていた。</p> <p>○目標達成に向けて、各自に応じた役割やペアでの活動の設定がよかった。</p> <p>●社会科のねらいを達成するために、宇宙のまちづくりプロジェクトについての発信の仕方や、発信したことへの評価について検討するとよい。</p> <p>●授業のゴールを明確にし、生徒の発言を生かしたまとめ方の工夫があるとよい。</p> <p>●生徒同士で活動を進められる部分も多い。教師の数や役割分担の検討が必要。</p>
指導助言者	秋田県教育庁 特別支援教育課 指導主事 佐藤 忠浩 氏
助言内容	<ul style="list-style-type: none"> 生活単元学習の意義を理解し、生徒の実態に応じた単元づくり、育てたい資質・能力を明確にした目標設定による授業づくりをしてほしい。 各教科等を合わせた指導においては、自立活動の個別のねらいを一層意識して支援を行ってほしい。 たくさんを求めすぎて育てたい力の部分がぶれないようにし、この単元を通して学んだことや育った力をつなげ、生活に生かすことができるよう意識しながら授業を進めてほしい。 評価については、どのような姿が見られることで到達となるのか。個別の指導計画と関連付けながらより具体的な姿をイメージしてほしい。

3 生徒の成長や変容

提示授業及び単元全体を通して見られた生徒の成長や変容は以下のとおりである。

- 能代市こども館の館長や地域おこし協力隊の方へのインタビュー等、人への関わりを通して、「もっと能代のことを学びたい」という姿が見られるようになった。
- 「ペアの友達と意見を伝え合うこと」を通して、学級の中で意見や改善案を出し合い、友達の意見を参考にまとめた物を改善するようになった。
- 地域おこし協力隊、能代市のV tuber「宙彩しろん」と関わって活動を進めることで、身近な地域である能代に関心をもち、積極的に学習に取り組んだ。
- 植物について最初は育ち方に興味をもっておらず、芽が出た・出ていない、花が咲いた・咲いていない、という点で終わっていたが、繰り返し学習に取り組むことで共通点、差異点に着目して、観察・比較することができた。
- 「予想する→比較・観察する→気付いたことをまとめる」という理科の見方・考え方を働かせて作業学習等の他の学習に取り組む様子が見られた。



（地域おこし協力隊の方へ宇宙野菜を紹介）



（中2で育てた宇宙アサガオ）

Ⅲ 学部研究のまとめ

1 育てたい資質・能力を明確にした単元設定について

今年度の授業づくりを通して、生徒の実態を基に、観点別学習評価表から育成したい資質・能力を選定し、単元目標を設定するという単元設定に係る手順を学部職員全員で共通理解することができた。育成したい資質・能力を焦点化したことで、手立てが明確になり、生徒が学びを実感することにつながった。

単元で扱う各教科等の指導内容については、社会科と理科の目標・内容を中心に、研究対象学年の単元や学年・学部合同で実施する単元において指導内容を検討・整理した。このことにより、生活単元学習で扱う必要のある指導内容が明確になったとともに、年間指導計画の内容の見直しにつながった。

2 単元目標を踏まえた学習活動の工夫について

単元設定を通して、単元目標を踏まえた学習活動の工夫についても検討した。居住地の取組と自分たちの学習の関連が分かるように、地域の方と直接関わりながら学ぶ場面を設定する、繰り返しながら発展的に進めることができる題材を設定する、他者に伝える機会を通して取組の成果を実感するといった学習活動の工夫を学部全体で共有した。本時の学習活動の検討においては、学部職員による授業のロールプレイの中で導入とまとめについて整理したことで、各教科等の指導内容を踏まえた授業の展開を検討できた。

3 単元目標と評価について

単元の評価については、「観点別学習評価表（学びの履歴シート）」を基に単元の目標を設定し発表機会等の評価場面を設定しながら生徒の様子や生徒自身の振り返りから評価することができた。一単元のみで評価が難しい指導内容については、指導計画立案の際にバランスよく配列することが大切であると学部全体で共有した。

I 学部研究の取組

1 研究の概要

(1) 研究対象と研究グループ

- ・今年度、作業学習を研究対象とし、縫製・クラフト班、木工班、総合サービス班接客部門の授業づくりに取り組んだ。
- ・研究グループは学部全体を上記の作業班を中心とした三つに編成し、内容に応じて学部全体やグループでの検討を行った。

(2) 研究内容

今年度の取組内容と実施時期は以下のとおりである（表1）。

表1 高等部の取組内容と実施時期

時期	内容
5月～9月	・共通実践 [指導内容の選定と学習活動の配列に関する検討①] ・学部実践 [手立ての工夫や指導方法の共有に向けた情報交換①]
10月	・学部実践 [手立ての工夫や指導方法の共有に向けた情報交換②]
11月	・全校授業研究会（縫製・クラフト班）
12月	・学部内授業研究会（木工班、総合サービス班接客部門）
1月	・共通実践 [指導内容の選定と学習活動の配列に関する検討②]
1月～2月	・研究のまとめ

2 研究の経過

(1) 共通実践

ア 育てたい資質・能力の確認と、魅力ある単元の設定に向けた構想

高等部では、単元構想を行う上で、作業学習用の単元構想シートを作成した。**※資料4** 研究対象の作業班ごとに、一人一人の各教科等で育てたい資質・能力に基づいて、単元の全体計画や単元目標、学習活動を順に整理した。学習集団の実態や、集団として育てたい資質・能力、校内外の地域資源（「しらかみの恵み」）の活用についても併せて整理し、魅力ある単元の設定に向けて構想を進めた。

イ 単元で扱う各教科等の指導内容の選定と、単元目標・評価規準の確認

上記の単元構想を踏まえ、観点別学習評価表から単元で扱う各教科等の目標・内容を選定し、単元構想シートにまとめた。指導内容の選定を通して、各教科等の指導内容がベースとなって作業学習の指導内容が選定されていることを改めて確認できた。今年度の研究の意義や方向性についても学部職員の理解が深まった。

選定した各教科等の目標・内容に即した単元の目標や評価規準の内容については、学部全体での協議を通して、設定方法や考え方を共通理解した。特に評価規準の達成度が個別の指導計画の評価につながることに、職員間でのイメージ共有もなされてきている。

ウ 年間の指導内容の選定と学習活動の配列に関する検討

各教科等の目標・内容をバランスよく計画的に取り扱うために、年間指導計画と観点別学習評価表を照らし合わせながら指導内容を見直した。作業学習のみで各教科等の指導内容を充足できるものではないことを確認し、年間の学習活動が各教科等の指導内容を計画的に指導することにつながっているかどうかについて振り返ることができた。各作業班においては、指導内容に偏りがあったり、満遍なく取り扱うことができていたりという差が確認されたが、観点別学習評価表の内容に基づいて指導内容や学習活動の配列を工夫することや、より計画的に年間指導計画を作成していくことに対する必要性への理解が深まった。

(2) 学部の実践

ア 物理的・人的環境の整理と検討

授業づくりにおいては、座席配置や動線、作業用具の配置等の物的環境や、教師のめあての伝え方や発問の工夫、チーム・ティーチングでの役割分担等の人的環境について検討し、その支援方法について学部で共有した。

イ iPad を用いたデジタル作業日誌の活用に向けた意見交換

毎回の授業における生徒の成長や課題について、視覚的な記録や成長の明確化を目指してデジタル作業日誌導入を検討した。書式や導入に用いるアプリケーション、必要な機能、操作性について検討を重ね、ロイロノートを用いたデジタル作業日誌としてまとめた。今後は実際の活用を通して導入の成果と課題を検討していく。

II 授業づくりの実際 [第2回全校授業研究会 概要] ※学習指導案は、資料の頁に掲載

高等部 作業学習 [縫製・クラフト班]

単元名「新エコバッグ・きんちゃく袋を販売しよう ～「能代支援ショップ」に向けて～」

1 授業づくりの経過

(1) 単元設定（単元構想から単元目標の設定までの経過）

提示授業である縫製・クラフト班の作業学習については、単元構想シート※資料4を活用して授業づくりに取り組んだ。個別の指導計画を基に、作業学習において育みたい資質・能力を整理するとともに、学習集団としての実態や「しらかみの恵み」として活用できるものを考慮しながら、観点別学習評価表と照らし合わせて単元や授業を通して育成したい資質・能力がさらに明確になるよう検討を重ねた。育成したい資質・能力が明確になったことで、どのように目標を設定し、どのように学習活動を工夫できるか、具体的に学習活動を計画することにつながった。

(2) 指導の工夫（各教科等を踏まえた学習活動や手立て）

①高等部家庭科1段階B衣食住の生活、高等部職業科1段階A職業生活イ職業の目標を踏まえ、仕上がりがきれいで質のよい製品作りをすることの意義付けが図られるように、地域に向けた製品販売会「能代支援ショップ」に向けた製品作りを展開することとした。前単元の作業製品販売の機会を利用してお客さんに行ったアンケートを基に、エコバッグの製品を改善しながら、作業技術の向上が図られるよう学習活動を設定した。

②高等部職業科1段階A職業生活イ職業の目標を踏まえ、本単元では良否の判断をする力や自分から作業方法を改善する力が育まれるように学習活動を検討した。作業のポイントや製品の規格を確認しながら作業する機会を設定したり、報告や相談を受けた際の教師の発問を精選したりしながら、よりよい仕上がりとするために作業方法を自分で試行錯誤する場面を設定した。

③高等部職業科1段階A職業生活ア勤労の意義の目標を踏まえ、学習グループの実態を考慮しながら染色、縫製の2工程を設定し、仲間と協働しながら一つのエコバッグを作ることとした。自分の役割の理解や工程に責任をもつことなど、よい製品作りに全員が関わっていることが分かるように学習活動を展開した。

2 授業研究会から

主な協議内容と指導助言については以下のとおりであった（表2）。

表2 第2回全校研究会の協議内容と指導助言（○：成果 ●：課題）

協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ○外部評価（客のニーズ）の取り入れ ○個別の指導計画、実態から構想した結果のニーズの取り入れ ○教科の目標の妥当性（目的に応じた縫い方） ○単元目標、指導計画、育みたい資質・能力の明示 ○ミシン操作技術などに見られた生徒の主体的な姿 ○見通しのもてる単元計画 ●良否の判断の方法／自分で気付く／自己評価のための方法 ●「正確さ」の評価と共有 ●社会人に求められる態度の押さえ ●「安全」に関する意識付け、環境の整備 ●教師の動き
指導助言者	秋田県教育庁 特別支援教育課 指導主事 工藤智史 氏
助言内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学びが図られ主体的な姿につながるような単元目標の設定であった。 ・育成したい資質・能力に基づいた単元構想、学習活動の工夫がよい。 ・販売のアンケートを基に生徒が製品の改善点をどうするか、試行錯誤しながら作業を進めていくプロセスや、課題解決型の取組がよい。 ・自立活動の視点を生かした授業づくりがなされていた。 ・生徒の気付き、教師からの聞き取りでの即時評価が、まとめの日記記入での自己評価につながる。生徒に「なぜできたのか」を聞いてほしい。問い掛けて、気付きを促すことが大事である。 ・繰り返しの活動の中で難易度を上げる発展的な単元の展開が大事となる。単元を二期に分けて評価や価値付けをするなどの工夫を検討してほしい。 ・作業製品や工程の分析では各教科等の見方・考え方の視点をもつことが大切である。この視点を授業改善にも生かしてほしい。 ・本時では何を学んでほしいのかを明確にもち、生徒の作業の様子や気付きを把握できるよう、教師の立ち位置も意識して授業づくりをしてほしい。 ・デジタル作業日誌は生徒自身の学びの履歴にもなるため、ぜひチャレンジしてほしい。

3 生徒の成長や変容

提示授業及び単元全体を通して見られた生徒の変容を以下に示す。

- ・全員で協働して一つの物を製作することを通して、よりよい製品を作ろうという意識や、自分の工程に対する責任感、担当する作業についての正確性が高まった。
- ・お客様のアンケートを基に製品の改善を図ったことで、担当する作業工程の意義について理解が深まった。また、作業への動機付けが図られ、相手意識をもって意欲的に作業に取り組む姿が増えた。
- ・仕上りの良否を自分で確認する活動を設定したことで、規格通りに製作しようとするなど、正確性への意識が高まった。良否の判断ができるようになったことで、「曲がっているから真っ直ぐ縫おう」「ここは〇cmだよ」「先生に確認してもらったほうがいいよ」と伝えるなど、学びに深まりが見られた生徒がいた。一方で、良否の判断基準を含めた作業の習熟度合いによっては、成功のこつや失敗の原因を言葉で表現することが難しい生徒もいる。
- ・用具の安全で正しい使い方については、まだ身に付いていない生徒が多く、継続して指導していく必要がある

Ⅲ 学部研究のまとめ

1 育みたい資質・能力に基づいた単元設定について

各教科等で育てたい資質・能力から単元の目標を設定したり、学習活動や作業工程の改善を図ったりすることが、学部全体でできるようになりつつある。育てたい資質・能力に基づいて単元を構想したことで、生徒の実態に即した具体的な単元目標を設定できた。また、実際の授業場面においては、生徒一人一人の育てたい資質・能力に合わせて作業工程や学習活動を設定できた。

一方で、生徒の実態や苦手意識への配慮から、どのように指導を展開していくことが望ましいのか、指導の方針を定めきれていない資質・能力もある。自立活動の視点をより踏まえながら今後の単元構想で検討を重ねていきたい。また、育成したい資質・能力を年間でバランスよく計画的に実践していくために、観点別学習評価表の内容に基づいた年間指導計画の見直しについても検討していく必要がある。

2 授業づくりのプロセス及び、指導と評価の一体化の共通理解に向けて

単元や授業の検討を通して、作業学習は各教科等を合わせた指導の形態の一つであり、各教科の指導内容がそのベースとなっていることについて、学部職員間での理解がより深まった。また、観点別学習評価表の内容を目標設定や評価にどのように関連させるかなど、授業づくりにおけるプロセスについても、一連の手順や考え方への理解の深まりが見られた。

一方で、本時の学習評価を次時以降の学習活動へ生かして授業改善すること、評価規準の内容と学習評価が個別の指導計画の評価へとつながっていくことなど、指導と評価の一体化については今後の実践を通して、一層実感を伴った理解の深まりを目指したい。

3 まとめと振り返りの充実を目指したデジタル作業日誌の活用に向けて

生徒自身で自己評価を重ね、学びを実感できるよう、デジタル作業日誌を作成することができたが、今年度の日々の授業での使用までには至らなかった。使用に当たっては、生徒の実態によりアプリケーション操作への習熟が必要となるため、今後は、各作業班から生徒を抽出する形での実施を検討している。デジタル作業日誌については、作業担当と学級担任間での生徒の成長に関する情報共有や、職業科の授業での活用など、活用の場の広がり期待できるため、本格的な導入に向けて引き続き学部内での検討と実践を進めたい。

寄宿舎研究



研究主題 生徒の学びが「見える」生活指導 ー生活自立体験を通してー
(1年次／2か年計画)

1 研究目的

一人一人の実態を的確に捉え、資質・能力を育むための生活指導の在り方や効果的な指導方法を見いだす。

2 研究仮説

生活自立体験[※]において、個々の生徒の実態から目標・手立てを設定する。成長や変容を適切に評価し、日々の生活における効果的な指導方法を共有しながら生活指導の改善を図ることで、確かな成長を促すとともに、生徒が「何が身に付いたか」を実感し、より主体的に生活する姿を引き出すことができるであろう。

※生活自立体験…将来の生活に関心や意欲をもち、必要な力を身に付けるための取組

3 研究内容・方法

(1) 実態や育てたい資質・能力が「見える」ようにする

- ・実態の確認と生活自立体験における個々の目標・手立ての設定
- ・目標における評価基準の設定

(2) 指導方法が「見える」ようにする

- ・指導場面や、個々の特性に応じた必要な指導方法の検討と整理、共有

(3) 成長や変容が「見える」ようにする

- ・評価基準を基にした評価の実施
- ・個々の目標に対する振り返りの工夫
- ・習得した力を活用する機会の設定

※上記(1)から(3)の内容について、日々の指導や研究日を通して実践検証を行う。
研究対象は、抽出生3名とする。

4 年間計画

月	日	研究の内容
4	28	・全校研究の概要について
5	19	・寄宿舎研究のテーマ、内容について
6	23	・生活自立体験の内容と具体的な進め方について ・研究内容・方法についてと、抽出生の選出(3名)
7	25	・抽出生について、実態や目標、手立て、具体的な評価基準を検討・共有
8	21	・抽出生の指導方法等の確認 ・効果的な指導方法について話し合い
9	22	・抽出生の変容と、手立ての改善
10	13	・抽出生の変容と、手立ての改善
11	23	・抽出生についてのまとめ(成果・課題)
12	22	・研究のまとめ(成果・課題)
1	10	・研究紀要案の提示
3	22	・次年度の研究について

5 研究経過

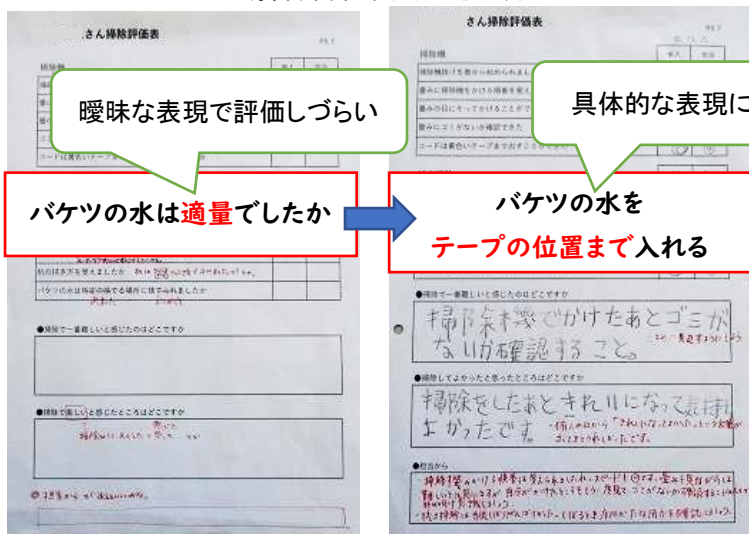
【抽出生の目標と実態】

抽出生	生活自立体験の目標	実 態
A (高2・男子)	部屋、公共场所の掃除を一人でできるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・体幹が弱く、緊張する場面や食事、着替え、歯磨きなどで震えが伴うことがある。ゆっくりであるが自分でできる。確認は必要である。 ・生活全般において家族に頼る部分が多く、経験不足である。 ・指示を聞いてから動作に移すまでに時間が掛かる。
B (高1・男子)	生活に必要な身の回りのことを覚え、自分から行う。 ※挨拶に焦点を当てて取り組んだ	<ul style="list-style-type: none"> ・できないことも「できる」と思っているところがある。 ・助言は素直に受け止めて改善に努め、正しい行動を心掛けている。 ・人見知りで初めての人に自分から話し掛けるのが苦手である。
C (高2・女子)	清潔や身だしなみを意識し、生活する。 ※入浴に焦点を当てて取り組んだ	<ul style="list-style-type: none"> ・清潔面の課題が多く、入浴、生理の手当て、衣類の整理などが不十分である。また、気候、気温に合った衣類の調整が難しい。

(1) 実態や育てたい資質・能力が「見える」ようにする

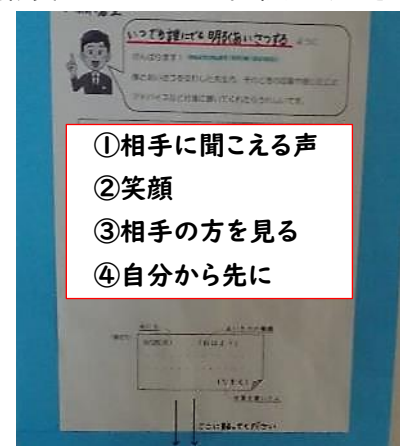
- ・実態把握では、「観点別学習評価表」を活用し、抽出生がどの段階までできているのか、このあと必要な力は何かを全員で確認した。このことで、抽出生が今後どのような資質・能力を高める必要があるのかを考える機会になった。
- ・目標や手立てについては、定期的に話し合いをし、抽出生に合わせて評価基準を設定した。評価基準の設定に当たっては、表現が分かりやすいか、具体的かなど、全員で検討し修正しながら評価表を作成した。評価基準を設定したことにより、何をどこまでできればよいのかが明確になり、具体的な指導ポイントを共有することができた。
- ・生活面に関する実態把握を更に具体的にできれば、より適切な目標や手立ての設定が可能になると考えられる。特に、今回の抽出生は3名とも新入舎生だったこともあり、丁寧な実態把握が必要であった。

〈掃除評価表 (Aさん)〉



生徒も職員も適切な評価ができるように、より具体的な表現に改善した。

〈職員へのコメント依頼文 (Bさん)〉

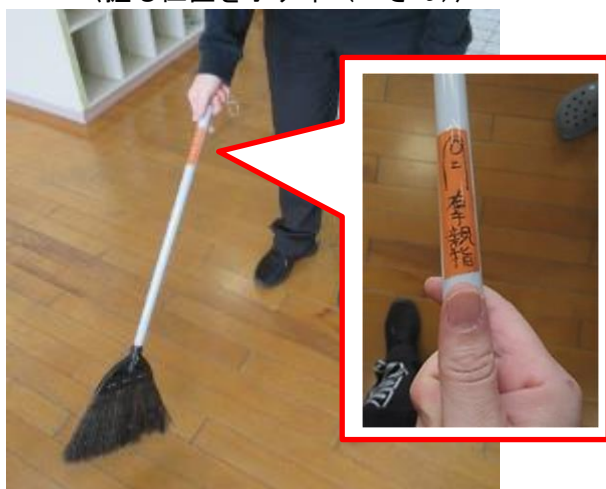


良い挨拶のポイント（視点）を本人と一緒に考え、挨拶を交わした職員から付箋にコメントを書いてもらった。

(2) 指導方法が「見える」ようにする

- 抽出生の変容を確認しながら指導方法を検討していく中で、改善した指導方法をその都度共有しながら取組を進めた。そのことにより、一貫した指導ができるようになった。道具に目印を付け、キーワードを決めて指導したことで、抽出生にとって分かりやすくなっただけでなく、一貫した指導をするためにも有効な手立てだった。
- 夏季休業中には、「普段、指導で心掛けていること」について話し合い、学校研究部主任、教育専門監からも助言を得た。子どもとの関わり方や具体的な指導の仕方など、様々な意見が出され、全体で共有した。助言を基に、出された意見を指導の手掛かりや心構えとして参考にできるよう、「言葉掛け」「教材・教具」「環境」の三つの項目に分けてまとめた。また、学校で作成している自立活動シートを指導の参考とした。
- 抽出生で効果的だった指導方法の活用について、各担当で検討した。実際に他の生徒に取り入れた事例もあり、有効だった手立ての活用についても共有できた。

〈握る位置を示す印 (Aさん)〉



掃いているうちに握り方が変わり、掃き進める向きも変わってしまう。ほうきの柄に握る位置を示した上で、分かりやすい合い言葉（「親指は上」）を作って職員間で共有し、統一した指導を行った。

〈事前練習の様子 (Cさん)〉

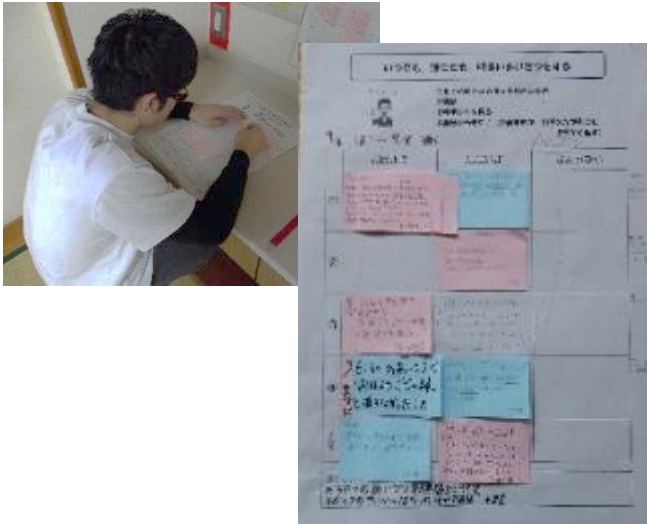


入浴前に手の動かし方を確認した。

(3) 成長や変容が「見える」ようにする

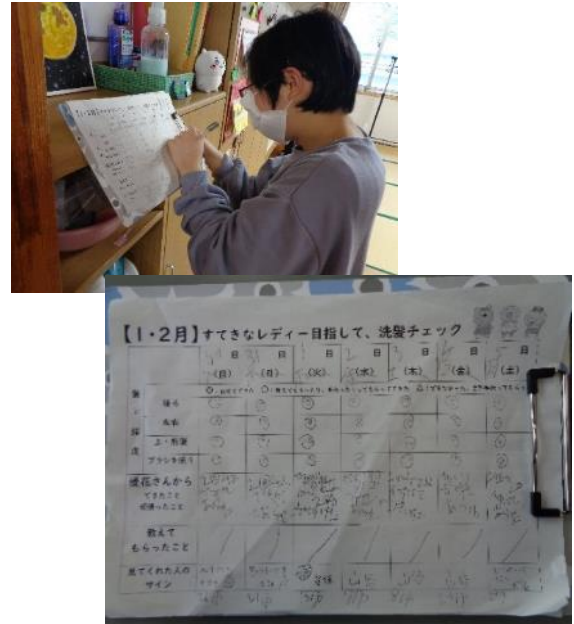
- 設定した評価基準を基に、抽出生と振り返りを行った。評価基準を具体的にしたこと、評価の内容を抽出生も理解し、適切な自己評価につながった。また、職員の主観で評価に差が出るのを防ぐこともできた。
- 記述式の他に、記号等による自己評価と他者評価を取り入れたことで、評価が見えやすくなり、抽出生が自分の課題や成長に気付き、今後の目標を設定する際の手掛かりとなった。
- 習得した力を家庭で生かすための方法を検討し、保護者とも相談しながら進めた。寄宿舎で使用している入浴チェック表を家庭でも活用した抽出生は、本人の意識に変化が見られ、家庭でもやろうとする気持ちが育ってきた。家庭でのやり方を寄宿舎で取り入れて掃除を行った抽出生は、保護者の協力の下、家庭でも取り組むようになり、保護者の意識にも変化が見られてきた。これらのことから、積極的に家庭へ発信できたこと、どうすれば家庭でできるかという視点で寄宿舎での指導内容や方法を決めたことで、家庭での取組につながった。
- 冬季休業前には、連絡帳を通して全寄宿舎生の保護者や学級担任に目標への取組の様子を伝えた。写真を入れ、内容が伝わりやすいよう工夫した。

〈振り返り表（Bさん）〉



良い点をピンク、課題点をブルーの付箋に色分けしたことで、課題が減ってくるのが分かりやすかった。また、視点ごとに仕分けて貼ることで、どの部分に課題があるのかが分かり、次週の頑張るポイントになった。

〈入浴チェック表（Cさん）〉



寄宿舎で使っているチェック表を家庭に持ち帰って活用した。

【抽出生の変容】

抽出生	変容
A (高2・男子)	<ul style="list-style-type: none"> ・用具の使い方や手順を覚えたことで、自信をもって一人で掃除できる箇所が増えた。 ・掃除をすると気持ちがいいことを実感していた。
B (高1・男子)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から挨拶することがほとんどなかったが、相手の目を見て自分から挨拶することが多くなった。本人も同様に感じていた。 ・表情が明るくなり、誰とでも話せるようになってきた。
C (高2・女子)	<ul style="list-style-type: none"> ・技術面が向上し、家庭でも上手に洗髪できるようになったことで、休み明けでも髪がサラサラになった。 ・髪を二度洗いすると泡立ちが良くなりきれいになることを実感していた。

6 成果と今後の方向性

(1) 成果

今年度は、評価において、職員間や職員と抽出生との間で評価のずれがないよう話し合いを重ね、基準を揃えることを丁寧に行った。また、毎月の研究日や毎週行っているミーティングで抽出生の様子や変容を共有したことで、どの職員でも同じ指導ができるようになり、指導の改善を図ることができた。評価が分かりやすくなったことで、抽出生自身も、成長・変容が自分でも「見える」ようになり、できるようになったことを実感し意欲的に目標の達成を目指す姿が見られた。

(2) 今後の方向性

次年度は、生活面の実態把握をより丁寧に行うことができるよう、実態把握表の様式や実態把握のやり方を見直すなどし、目標設定に活用していく。また、職員間で情報共有を図り、有効な手立てを他の児童生徒へ生かせるようにしていきたい。今年度の実績を基に、場面が変わってもできるようにするための手立てを検討し、その有効性を検証しながら取組を進めていく。

1年次のまとめ



知的障害特別支援教育においては、学習指導要領の趣旨に基づき、各教科等を合わせた指導の実践に関する各教科等の取扱いや学習評価等の在り方が再考されている。丹野（2022）は、各教科等を合わせた指導の意義と課題を述べる中で、学習活動を通して何を学んだのか、特に、各教科等の目標から何を学び得たのか明確でないという指摘もあることを示唆し、学習内容をどのような学習活動を通して学び、育成を目指す資質・能力を目指しているのか明確にしておく必要があるとしている。国立特別支援教育総合研究所による「知的障害教育における授業づくりと学習評価に関する研究」成果普及セミナー（2023）では、単元で取り扱う各教科は評価対象とする教科等を精選することや、各教科等は年間指導計画等により計画的に取り扱うよう整理することなど、授業実践の具体的な方策が示された。

今年度、本校では、「観点別学習評価表」を作成し、“各教科等を合わせた指導において各教科等の目標・内容を単元の中にどのように組み込むのか”をテーマに、単元設定までの過程を重点的に検討した。学部研究会や授業研究会での協議を重ねる中で、児童生徒一人一人の各教科等で育てたい資質・能力を起点とし、単元で扱う各教科等の具体的な指導内容と、指導の形態の特徴に即した学習活動の二点を相互に十分検討することで、児童生徒の確かな学びにつながる単元の設定ができるということを体得した。一方で、各教科等の内容の計画的な指導や単元目標の設定の在り方、教科の見方・考え方を生かした授業展開等、引き続き検討すべき内容も多い。

以下に、今年度の成果と課題をまとめる。

I 成果

1 全職員による研究内容の理解と取り組むべき課題の共有

研究全体会や学部研究会、職員研修会の機会、そして全校授業研究会の事後において、知的障害特別支援学校の教育課程、各教科等の取扱い、知的障害のある児童生徒の教育的対応の基本等、学習指導要領に示されている事項とその解釈について、学校全体で定期的に再確認した。このことにより、これまでの実践内容や実践方法に対する各教師の課題意識が高まり、生活単元学習や作業学習に関する捉えや考え方を教師間で整理できた。また、寄宿舎の研究においても、学習指導要領に示されている事項の要点や全校研究の概要を、研究内容に関連付けながら実践を進めることができた。各教科等を合わせた指導に関する今日的な課題と、本校のこれまでの指導の進め方を比較検討しながら、全職員で新たな研究内容の理解と取り組むべき課題の共有ができた。

2 「観点別学習評価表（学びの履歴シート）」の活用 【学習状況、資質・能力が見える】

指導と評価の一体化を目指した観点別学習評価表の導入により、各教科等の指導内容に基づいた学習履歴の確認が、効率よくなされるようになった。個別の指導計画についても、各教科の評価規準に則して組織化されたことで、一人一人の育てたい資質・能力の確認を一律で行えるようになった。このことにより、単元で育てたい資質・能力の選定が根拠のある確かなものとなった。また、具体的な指導内容の設定や指導計画の作成等においては、学習指導要領解説と併せて観点別学習評価表を積極的に使用する教師が増えた。各教科等の目標・内容を踏まえて指導を行おうとする教師の姿勢も培われつつある。観点別学習評価表は、児童生徒の学習状況や育てたい資質・能力の確認、指導内容の設定、指導計画の作成等において効果的に活用することができた。

3 各教科等の目標・内容を効果的に指導するための単元設定 [資質・能力が見える]

単元設定に当たっては、単元構想シートを使用し、扱う主な各教科等の指導内容や学習活動を重点的に検討した。単元構想シートの活用を通して、特に、教師の願い（年間や集団で育てたい姿や設定したい活動）と各教科等で育てたい資質・能力を区別して考えることや、生活単元学習や作業学習で扱うべき指導内容を適切に選定することについて、意識化が図られた。また、単元で扱う主な各教科等を精選したことで、各教科等の目標を達成するために適した学習活動や指導方法の具体化に注力できた。授業研究会の協議では、提示単元で選定した各教科やその指導内容についての妥当性を問う意見や、設定した学習活動や教師の手立てが各教科の資質・能力を育てるために有効なものかどうかを確認する場面等が増えつつある。

4 手立ての工夫や指導方法の共有 [成長・変容、指導方法が見える]

研究対象の全ての授業において、児童生徒の成長や変容、指導方法が「見える」ことを目指し、本時の目標を達成するための個別の手立てや、学んだことを活用して学習に取り組むための手立ての工夫がなされた。また、昨年度の研究成果の内容を生かすとともに、個々の自立活動の目標を意識することで、教材・教具の工夫や環境設定の確認に注力できた。これらの手立てが、児童生徒の学習への「参加」を促し、各教科等で育てたい資質・能力を意識した指導を推進した。各回の授業研究会の指導助言を実践に反映させたことも効果的な指導につながったと考える。指導方法に係る成果は、「能代スタンダード」として共有し、今後は児童生徒の「学び」を促す指導の工夫を目指したい。

5 各教科等の学びを踏まえた児童生徒の成長や変容 [成長・変容が見える]

各教科等で育てたい資質・能力を起点とした単元設定や、授業時における指導の工夫により、学習で覚えた用語を進んで使用しながら経験したことを伝える姿、日常の中で学んだことを想起する姿、学んだことを踏まえて自分で判断し行動する姿など、各教科等で育てたい資質・能力に迫る児童生徒の成長や変容の姿を増やすことができた。各教科等の目標を達成していくために、今後は、学習評価の充実と、各教科の見方・考え方を生かしたり働かせたりすることに重きを置いた授業展開や手立ての工夫を目指したい。

II 課題

1 年間の指導内容の可視化

今年度は、一つの単元を対象に、単元で扱う主な各教科等と指導内容を精選して選定した。具体的な指導内容の設定では、どの学部においても、検討の過程で内容を再選定したり、指導内容に適した指導時数を検討したりしながら、指導内容の焦点化を図った。各教科等の履修については、学部ごとに構成された各教科を、学部在籍年数の中で履修することとなっている。実践を進める中でこのことをより認識し、指導内容の設定については一単元のみでの検討ではなく、年間や学部在籍年数を見越して検討することの必要性に気付くことができた。本校で現在使用している年間指導計画は、「学習活動」の記載が中心であり、各教科等の「指導内容」は不明確である。児童生徒の資質・能力の育成に向けては、各教科等を合わせた指導において扱う必要のある各教科等と指導内容を整理し、計画的な指導を進めていくことが求められている。次年度は教務部との連携を一層推進し、年間の指導計画を可視化できるよう年間指導計画の様式改訂を行い、計画に基づいた実践を進める。☒資料5

2 単元目標の設定の在り方

今年度の単元目標の設定については、三つの資質・能力の関係に則し、単元で扱う複数の各教科等の指導内容と学習活動を包括させ、全体目標として一本化することを基本とした。しかし、扱う各教科の種類や選定数によっては包括させて文章化することが難しい場合や、一本化することで育てたい資質・能力の読み取りが難しい場合も多く、設定に苦慮した。今年度の試みでは、目標の中に具体的な指導内容を盛り込むことはできたものの、活動目標や指導目標にとどまった。各教科等を合わせた指導を行う場合においても、各教科等の目標を達成していくこととなっていることから、指導と評価の一体化を目指し、今後は、単元目標についても各教科等の目標・内容を適用する形で設定するなど、授業実践を通して目標設定の在り方を引き続き検討・改善する。

3 各教科等で育てたい資質・能力を計画的に育むための、日々における授業づくりの在り方

各教科等を合わせた指導における単元設定までの検討について、今年度は単元構想シートを活用したが、今後は、既存の教育資料や学習指導案類との関連付けを一層図ることで、日々の授業づくりの体制を整えていきたい。以下に、各教科等で育てたい資質・能力を計画的に育むための取組内容と関連付ける教育資料等を示す。

①学習履歴の確認と育てたい資質・能力の選定

- ・これまでの学習履歴の確認 <観点別学習評価表（学びの履歴シート）>
- ・年度における一人一人の育てたい資質・能力の選定 <個別の指導計画 [各教科]>

②年間で扱う各教科等や指導内容、学習活動の検討 <年間指導計画>

- ・各単元で扱う指導内容の選定と学習活動の配列

③一単元の充実に向けた検討 <学習指導案>

- ・単元を通して目指したい児童生徒の姿の確認
- ・単元で扱う各教科等の具体的な指導内容の確認
- ・指導の形態や児童生徒の学習経験・実態を踏まえた魅力ある学習活動の設定
- ・単元目標（各教科等の目標）の設定

※指導内容の選定と学習活動の配列に当たっては、学習指導要領解説（知的障害のある児童生徒の教育的対応の基本、各教科等を合わせた指導の特徴と留意点等）や観点別学習評価表を参考とする。

参考文献

- 文部科学省（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）
- 文部科学省（2018）特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）
- 文部科学省（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）
- 文部科学省（2019）特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部）
- 文部科学省（2019）特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編（上・下）（高等部）
- 福島県特別支援教育センター（2021）知的障がいのある児童生徒のための各教科の指導の充実～授業づくりのポイント&実践事例集～
- 丹野 哲也（2022）「各教科等を合わせた指導」の意義と課題—育成を目指す資質・能力と指導の形態—．
発達障害研究第44巻
- 名古屋恒彦（2022）「各教科等を合わせた指導」と教科の考え方 知的障害教育現場での疑問や懸念に
こたえる．教育出版
- 佐藤 慎二（2022）通常学級の「特別」ではない支援教育 校内外支援体制・ユニバーサルデザイン・
合理的配慮．東洋館出版社
- 全日本特別支援教育研究連盟（2023）これからの特別支援教育はどうあるべきか．東洋館出版社

資料 · 學習指導案



領域・能力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観 点 等	活動や体験の過程において、自分自身や身近な人々、社会及び自然の特徴に関心をもっているとともに、身の回りの生活において必要な基本的な習慣や技能を身に付けている。	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて関心を持ち、感じたことを伝えようとしている。	自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々、社会及び自然に関心を持ち、意欲をもって学ぼうとしたり、生活に生かそうとしたりしている。
基 本 的 生 活 習 慣	食事前の手洗いや配膳、食後の片付けを含んで食事の初歩的な行動が分かり、行うことができる。	食事に関する初歩的な手順に気付き、教師と一緒に行動し、できたことなどを表現している。	食事に関わる初歩的な学習活動を通して、自分のことに取り組もうとしている。
	用便の手順にしたがって用を足すことや、用便後に手を洗うことなどが分かり、教師の援助を受けて行える。	尿意や便意などを伝えたり、支援を求めたりすることができる。	用便に関わる初歩的な手順にしたがって用を足そうとしている。
	必要な支援を受けながら着替えをし、気持ちを落ち着けて一人で就寝することができる。	就寝に関する初歩的な処理に気付き、教師と一緒に行動し、できたことなどを表現している。	就寝に関わる初歩的な学習活動を通して、自分のことに取り組もうとしている。
	洗面や歯磨きなど清潔に関する初歩的な知識や技能を身に付けている。	清潔に関する初歩的な処理に気付き、教師と一緒に行動し、できたことなどを表現している。	清潔に関わる初歩的な学習活動を通して、自分のことに取り組もうとしている。
	持ち物の整理、自分の服や靴など自分の使った物の整理や、決められた場所に置くなど身の回りの整理に関する初歩的な知識や技能を身に付けている。	身の回りの整理に関する初歩的な処理に気付き、教師と一緒に行動し、できたことなどを表現している。	身の回りの整理に関わる初歩的な学習活動を通して、自分のことに取り組もうとしている。
	簡単な衣服や靴の着脱の仕方などの初歩的な知識や技能を身に付けている。	衣服等の着脱に関する初歩的な処理に気付き、教師と一緒に行動し、できたことなどを表現している。	衣服の着脱に関わる初歩的な学習活動を通して、自分のことに取り組もうとしている。
安 全	危険な場所を知り、身の回りのある玩具等を口に入れない、階段や段差などに注意して歩くなど、自分の身を守る適切な行動に気付いている。	自分の身を守る適切な行動に気付き、教師と一緒に安全な生活に取り組み、できたことなどを表現している。	危険防止に関する初歩的な学習を通して、危険なことや危険な場所等を選ぼうとしている。
	信号や標識に従うことや安全な道路の渡り方など、交通安全の初歩的な知識や技能を身に付けている。	道路の安全な歩き方に気付き、教師と一緒に安全な生活に取り組み、できたことなどを表現している。	交通安全に関する初歩的な学習を通して、危険なことや危険な場所等を選ぼうとしている。
	避難訓練の初歩的な知識や技能に気付き、落ち着いて指示に従って避難することができる。	教師と一緒に避難訓練に取り組み、できたことなどを表現している。	避難訓練に関する初歩的な学習を通して、危険なことや危険な場所等を選ぼうとしている。
	教師と一緒に活動しながら危険な場所や事故につながる行動に気付いている。	身の回りの危険な場所や行動に気付き、教師と一緒に安全な生活に取り組み、できたことなどを表現している。	防災や事故に関する初歩的な学習を通して、危険なことや危険な場所等を選ぼうとしている。
日 課	簡単な日課に関心をもっている。	簡単な日課に気付き、教師と一緒に日課に沿って行動し、できたことなどを表現している。	日課に沿って行動しようとしている。
遊 び	教師の働き掛けを受け入れて、まねをしたり、ごっこ遊びをしたり、玩具を使った遊びをしたりするなど、安定した気持ちで身体を動かして遊んでいる。	身の回りの遊びに気付き、教師や友達と同じ場所で遊び、遊んだことを表現している。	自分の好きな遊びを選び、教師や友達と同じ場所で遊ぼうとしている。
	道具の準備から片付けまでの一連の活動に自分から取り組んだり、教師と一緒に取り組んだりしている。	簡単な道具の準備や片付け方に気付き、教師と一緒に取り組み、感じたことを表現している。	簡単な道具の準備や片付け方に関心を持ち、教師と一緒に取り組もうとしている。
人 と の 関 わ り	自分自身や家族のことが分かり、簡単な自己紹介をしたり、呼び掛けに答えたりすることができる。	教師や身の回りの人からの働き掛けに気付き、身振りや表情、挙手や発声、絵カード等で応答している。	簡単な自己挨拶や呼び掛けへ応答を積極的に行おうとしている。
	身近な教師に簡単な要求を表情、身振り、絵カードなどで表現したり、お辞儀や手を振るなどして挨拶したりすることができる。	簡単な要求を自分でできる手段を用いて伝えたり、挨拶などを通してコミュニケーションをとろうとしている。	積極的に要求したり、挨拶したりしようとしている。
	人の来訪や電話に気付き、関心をもっている。	人の来訪やかかってきた電話に気付き、身近な大人に伝えようとしている。	電話や来客の取次に関心を持ち、伝えようとしている。
役 割	いろいろな行事に参加し、集団に慣れ、集団の中での役割に気付いている。	身の回りの集団に気付き、教師と一緒に役割を果たし、できたことなどを表現している。	集団の中での役割を果たそうとしている。
	地域の行事へ参加し、楽しみ、自分の役割を果たすことに気付いている。	地域の行事へ参加し、身近な大人と一緒に役割を果たし、できたことなどを表現している。	身近な大人と一緒に地域の行事の中での役割を果たそうとしている。
	簡単な作業を共同で行い、作業において分担された個人の役割を果たすことに気付いている。	共同で取り組む作業での分担された役割に、教師と一緒に取り組み、できたことなどを表現している。	教師と一緒に共同作業の中での役割を果たそうとしている。
手 伝 い ・ 仕 事	物の配達や伝言、作業の手伝いなどの喜びに気付いている。	身の回りの簡単な手伝いや仕事を教師と一緒に行動し、感じたことなどを表現している。	身の回りの簡単な手伝いや仕事をやろうとしている。
	所持品の整理や友達や学級の物の整理、不必要な物の選別と廃棄の仕方などについて気付いている。	身の回りの整理整頓を教師と一緒に行動し、できたことなどを表現している。	身の回りの整理整頓をやろうとしている。
	窓や扉の開閉を繰り返しながらその意味に気付くこと。	窓や扉の戸締まりを教師と一緒に行動し、できたことなどを表現している。	身の回りの戸締まりをやろうとしている。
	ごみを拾って捨てたり、掃除用具を使って簡単な掃除をしたりすることに気付いている。	身の回りの簡単な掃除を教師と一緒に行動し、できたことなどを表現している。	身の回りの簡単な掃除をやろうとしている。
	手伝いなどが終わったら、使用した道具や材料などの片付けを行い、教師に報告することなどに気付いている。	身の回りの簡単な後片付けを教師と一緒に行動し、できたことなどを表現している。	身の回りの簡単な後片付けをやろうとしている。

教科	段階	資質・能力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
国語	第 1 段階	評価の観点等	日常生活や社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。	順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。	言葉がもつよさに気付くとともに、図書に親しみ、国語で考えたり伝え合ったりしようとする態度を養う。
国語	第 1 段階	言葉の特徴や使い方	身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。	聞くこと・話すこと 身近な人の話や簡単な放送などを聞き、話の大体を捉えるために、聞いたことを書き留めたり分からないことを聞き返したりしている。	身近な人や簡単な放送などに関心をもって聞き、積極的に話の大体を捉えようとしている。
国語	第 1 段階	言葉の特徴や使い方	発音や声の大きさに気を付けて話すことができる。	聞くこと・話すこと 話す事柄を思い浮かべ、伝えたいことを決めようとしている。	話す事柄を基に、伝えたいことを考え、伝える学習に関心を持ち、積極的に積極的に取り組もうとしている。
国語	第 1 段階	言葉の特徴や使い方	長音、拗よう音、促音、撥はつ音、助詞の正しい読み方や書き方を知っている。	聞くこと・話すこと 見聞きしたことや経験したこと、自分の意見などについて、内容の大体が伝わるように伝える順序等を考えようとしている。	話す内容の大体が伝わるように順序立てて話す学習に関心を持ち、積極的に取り組もうとしている。
国語	第 1 段階	語や文章	事柄の順序など、情報と情報との関係について理解している。	書くこと 文の構成、語句の使い方に気を付けて書くようとしている。	文の構成や語句の使い方に関心を持ち、積極的に学習に取り組もうとしている。
国語	第 1 段階	言語文化	姿勢や筆記具の正しく持ち、文字の形に注意しながら、丁寧に書くことができる。	読むこと 簡単な文や文章を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像しようとしている。	文章に記された内容から読み取る学習に積極的に取り組もうとしている。
教科	段階	資質・能力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
社会	第 1 段階	評価の観点等	身近な地域や市区町村の地理的環境、地域の安全を守るための諸活動、地域の産業と消費生活の様子及び身近な地域の様子の移り変わり並びに社会生活に必要なまきり、公共施設の役割及び外国の様子について、具体的な活動や体験を通して、自分との関わりが分かるように、調べまとめる技能を身に付けるようにする。	社会的事象について、自分の生活や地域社会と関連付けて具体的に考えたことを表現する基礎的な力を養う。	身近な社会に自ら関わろうとする意欲を持ち、地域社会の中で生活することの大切さについての自覚を養う。
社会	第 1 段階	社会参加ときまり	学級や学校の中で、自分の意見を述べたり相手の意見を聞いたりするなど、集団生活の中での役割を果たすための知識や技能を身に付けている。	集団生活の中で何が必要かに気付き、自分の役割を考え、表現している。	社会参加するために必要な集団生活に関わる学習活動に関心を持ち、身近な社会に自ら関わろうとしている。
社会	第 1 段階	社会参加ときまり	家庭や学校でのまきりを知り、生活の中でそれを守ることの大切さが分かっている。	社会生活ときまりとの関連を考え、表現している。	社会参加するために必要な集団生活に関わる学習活動に関心を持ち、身近な社会に自ら関わろうとしている。
社会	第 1 段階	公共施設と制度	身近な公共施設や公共物の役割が分かっている。	公共施設や公共物について調べ、それらの役割を考え、表現している。	公共施設や公共物に関心を持ち、積極的に学習に取り組もうとしている。
社会	第 1 段階	我が国の地理や歴史	身近な地域や自分たちの市町村の様子が分かっている。	都道府県内における市町村の位置や地形、土地利用などに着目して、身近な地域や市町村の様子を捉え、場所による違いを考え、表現している。	身近な地域や自分たちの市町村の様子に関心を持ち、積極的に学習に取り組もうとしている。
教科	段階	資質・能力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数学	第 1 段階	評価の観点等	・3位数程度の整数の概念について理解し、数に対する感覚を豊かにするとともに、加法、減法及び乗法の意味や性質について理解し、これらを計算することについての技能を身に付けるようにする。 ・三角形や四角形、箱の形などの基本的な図形について理解し、図形についての感覚を豊かにするとともに、図形を作図したり、構成したりすることなどについての技能を身に付けるようにする。 ・身の回りにある長さ、体積、重さ及び時間の単位と測定の意味について理解し、量の大きさについての感覚を豊かにするとともに、それらを測定することについての技能を身に付けるようにする。 ・身の回りにあるデータを分類整理して簡単な表やグラフに表したり、それらを問題解決において用いたりすることについての技能を身に付けるようにする。	数とその表現や数の関係に着目し、具体物や図などを用いて、数の表し方や計算の仕方などを筋道立てて考えたり、関連付けて考えたりする力を養う。 ・三角形や四角形、箱の形などの基本的な図形を構成する要素に着目して、平面図形の特徴を捉えたり、身の回りの事象を図形の性質から関連付けて考えたりする力を養う。 ・身の回りの事象を量に着目して捉え、量の単位を用いて的確に表現する力を養う。 ・身の回りの事象を、データの特徴に着目して捉え、簡潔に表現したり、考察したりする力を養う。	・数量に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことよきよきに気付き、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。 ・図形に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことよきよきに気付き、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。 ・数量や図形に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことよきよきに気付き、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。 ・データの活用に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことよきよきに気付き、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。
数学	第 1 段階	数と計算・整数	数を十や百を単位としてみるなど、数の相対的な大きさについて理解している。	数のまとまりに着目し、考察する範囲を広げながら数の大きさの比べ方や数え方を考え、表現しようとしている。	数を表す単位に関心を持ち、数の単位や相対的な大きさを比較する学習に積極的に取り組もうとしている。
数学	第 1 段階	数と計算・整数の加法及び減法	2位数の加法及び減法について理解し、その計算ができる。また、それらの筆算の仕方について知っている。	数量の関係に着目し、数を適用する範囲を広げ、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見だし、表現しようとしている。	2位数の加法及び減法に関心を持ち、それらの筆算に積極的に取り組もうとしている。
数学	第 1 段階	図形	直線について知っている。	図形を構成する要素に着目し、構成の仕方考えるとともに、図形の性質を見だし、身の回りのものの形を図形として捉えようとしている。	図形に関心を持ち、図形の学習に積極的に取り組もうとしている。
数学	第 1 段階	図形	三角形や四角形について知っている。	図形を構成する要素に着目し、構成の仕方考えるとともに、図形の性質を見だし、身の回りのものの形を図形として捉えようとしている。	図形に関心を持ち、図形の学習に積極的に取り組もうとしている。

R5 各教科等を合わせた指導 単元構想シート

〇〇部〇～〇年 名	生活単元学習／作業学習〇〇班	指導者 〇〇、〇〇・・・・
-----------	----------------	---------------

単元を通して育てる資質・能力（個別の指導計画から）

〇・〇←児童生徒名 ・ ・ ・	〇・〇 ・ ・ ・

作成メモ

魅力ある単元（学習グループとしての実態、これまでの学び、設定したい学習活動など）

--

扱う各教科等の指導内容

--

単元名			
単元の目標	【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力等】	【学びに向かう力・人間性等】
評価規準	【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】

作成メモ 評価方法や時期、教師の評価の観点（指導評価）

R 5 各教科等を合わせた指導 単元構想シート【作業学習用】

部 名	作業学習	班	指導者
-----	------	---	-----

単元を通して育てる資質・能力（個別の指導計画から）

【氏名】 .	【氏名】 .
【氏名】 .	【氏名】 .
【氏名】 .	【氏名】 .
【氏名】 .	【氏名】 .
【氏名】 .	【氏名】 .

魅力ある単元設定に向けて
学習集団の実態（所属する生徒像、興味関心、得意不得意、課題等）

個別の指導計画からピックアップした育みたい資質・能力（学習集団として）

白神のめぐみ（校内外の地域資源、人材）

設定したい学習活動（教師の思い）

扱う各教科等の内容（「設定したい学習活動」の根拠となる指導内容を観点別学習評価票から選定）

メインとなる製品・活動

単元名・目標・評価基準の設定へ

令和6年度 年間指導計画 素案 【各教科等を合わせた指導用】

指導の形態等		年間時数	予定 時間／実施 時間									
部・年組・グループ・人数		部 年 組 名	作成者	他 名								
月	単元名 ・主な学習活動	予定 時数 (実施)	単元で扱う各教科等								学習の様子	
			国	社	数	理	音	美	保体	職家		他
4	新年度スタート		○	○	○					○		各教科は 中学部の例
	・学級の目標決め ・掲示物づくり		言語 文化 ・ 書く	参加	測定 (長さ)				表現			
5 6	宿泊学習へ行こう		○	○	○	○					○	家庭 健康 食事
	・活動内容の確認 ・目標決め ・係の仕事の準備 ・日程表の作成 ・結団式、報告会		特徴や 使い方 ・ 話す 書く	きまり 施設 地理	測定 (時刻)	自然						
7 8	<p>・指導内容は学びの履歴シート（個別の指導計画）と学習指導要領解説の内容を参考に抜粋する。 ※基本は「内容のまとまり」を記載予定。</p> <p>★国語はA聞くこと・話すこと、B書くこと、C読むことを通して指導することからA・B・Cも合わせて記載する</p>											
9 10												

指導の評価

<ul style="list-style-type: none"> 効果的だった指導方法（例 教材・教具、T Tの役割分担 等）や支援方法（個別の配慮等）について記載

【参考】	教科	国	社	数	理	職・家	職・家
主要教科の主な内容 (内容のまとまり) ※選択して記載する	内容	使い方・特徴	社会参加 ときまり	産業と 生産	数と計算 測定	生命	職業生活 家庭生活
		語・文章	公共施設 と制度	地理や 歴史	図形 データの 活用	地球・ 自然	情報機器 の活用
		言語文化	地域の 安全	外国の 様子		物質・エ ネルギー	実習

小学部3年 生活単元学習 学習指導案

日 時 令和5年11月21日(火) 10:40~11:25
 場 所 小学部プレイルーム
 授業者 諏訪寿昭(T1) 大森智美(T2)
 佐藤加奈子(T3) 大和路子(T4)

1 単元名 ようこそ さんさんらんどへ② ～はこでつくろう ぼくらのまち～

2 単元の目標

- (1) 箱を使った遊びや制作、友達を招待する活動を通して、長さや高さの量の大きさに気付くとともに、身近な人への接し方が分かる。【知・技】
- (2) さんさんらんどを作る活動で、友達や教師と言葉や身振りで関わり合い、箱の積み上げ方や並べ方などを工夫し表現する。【思・判・表】
- (3) 1・2年生を招待することを楽しみにしながら、量の大きさを比べたり工夫を伝えたりすることに関心を持ち、積極的にさんさんらんどを作ろうとする。【学・人】

【知・技】知識・技能 【思・判・表】思考力・判断力・表現力等 【学・人】学びに向かう力・人間性等

3 単元(題材)の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む姿
<ul style="list-style-type: none"> ・箱の長さや高さを比べ、どちらが長いか、高いかに気付いている。 ・低学年の友達や教師に、挨拶、要求や依頼、経験したことを言葉や身振りで適切に伝える。 	言葉を掛け合う、手伝うなど友達や教師と関わりながら、箱の積み上げ方や並べ方、つなぎ方を考え工夫し表現して目的物を作っている。	友達を招待し一緒に遊ぶことを楽しみにしながら、電車の長さやタワーの高さなどを比べたり伝えたりすることに関心を持ち、積極的にさんさんらんどを作ろうとしている。

※単元で扱う主な各教科等 生活科、算数科

4 児童と単元

(1) 児童について

本学年は男子6名からなる。1名は歩行や姿勢保持に支援が必要であり、時間における自立活動を設定している。言葉でのやりとりができる児童から、発声やサインなどで気持ちを伝える児童まで、実態は多様だが他者と関わるのが好きである。特に身近な教師には、自分から要求や依頼を伝えられるようになってきた。また、日々の活動においても、手掛かりを基に主体的に活動し、見通しをもって集団に参加するなどの成長が見られる。1・2年生の「なかよしまつり」に招待された経験により、自分たちも遊び場を作って招待し、一緒に遊びたいと感じている児童もいる。測定に関しては、日々の遊びや活動の場面で物を比較する際に「大きい」と区別して表現することが多い。今後は、長さや高さに注目して比べることや用語などの習得が必要な段階である。

(2) 単元について

作って遊ぶ活動や結果の分かりやすい活動は児童たちにとって魅力的であり、「さんさんらんど」はそれらの活動を中心に内容を構成している。前単元では、空気砲や魚釣りゲームなどを通して、自作の玩具で遊ぶ楽しさを味わった。本単元では、空き箱で電車やタワー等を作って下学年に紹介し、一緒に遊ぶ活動を展開する。積む、並べる、置く向きを変えるなど、自分の力で様々な大きさの箱を自由に操作する中で、長さや高さなどの量に気付き、関心を持ちながら学ぶことができると考えた。また、一緒に積み上げるなどの場面を設定することで、見合ったり手伝ったりする姿を増やし、友達同士の関わりを広げ、その際の適切な伝え方について学ぶ機会としたい。下学年を招待する活動では、工夫した点や遊び方を自分たちで紹介することで、長さや高さに関する用語の理解の促しや、気持ちを適切に表現しようとする態度を引き出したい。親しみのある身近な仲間を招待し、自分たちで考えた遊びを一緒に楽しみ、喜んでもらう活動は、児童の学習意欲を支え、達成感につながると考え、本単元を設定した。

(3) 指導について

- ・一人一人が存分に遊びや制作を楽しめるように、様々な種類、十分な量の箱を準備し、じっくりと遊ぶ時間を設定する。また、児童が好むダイナミックな身体活動の機会も増やせるように、大きいサイズの箱を準備する。
- ・工夫して制作できるように、教師も一緒に箱を運び積み上げるなどし、児童のモデルとなる。
- ・高い、長いなど量の大きさを意識できるように、場面を捉えて教師が言語化して伝える。学んだことの定着を図れるように、教師と児童と一緒にキーワードを話す場面の設定や、キーワードをカードにして掲示するなどを繰り返し行う。
- ・友達や教師と適切に関わることができるように、必要に応じて称賛したり、仲立ちのための言葉掛けをしたりする。
- ・活動に見通しをもち、期待感を高められるように、「さんさんらんど」のマップや単元計画表を準備する。
- ・安心して学習に臨めるように学習活動の流れは一定にする。準備や後片付けを自分たちでできるように学習環境を整える。
- ・各自の工夫した点や考えを共有できるように、発言を板書したり写真や動画で記録したりする。

5 指導計画（総時数24時間）

小単元名・主な学習活動	時数	目標	扱う主な各教科等
(1) さんさんらんど② はじまるよ ・前単元の振り返り ・オリエンテーション	2	・さんさんらんどで何を作るかや、誰を招待するかを知る。【知・技】 ・1・2年生を招待して一緒に遊ぶ活動に期待感をもち、さんさんらんど作りを楽しみにする。【学・人】	生活2 オ人との関わり
(2) ①つくって あそぼう さんさんらんど ②つくろう さんさんらんど ・お家作り ・トンネル作り ・タワー作り ・電車作り	6 10 本時 10/10	・積み上げると高く、並べると長くなることを知り、二つの作ったものを比べてどちらが高いか、長いかが分かる。【知・技】 ・タワーや電車作りを通して、「貸して」「お願い」「できた」「見て見て」など、自分の思いの伝え方が分かる。【知・技】 ・積み上げ方や並べ方を工夫してタワーや電車を作り、「高い」「長い」などを言葉や身振りで表現する。【思・判・表】 ・友達が作った物を見て、真似する、競い合うなどして関わり、「すごいね」「上手だね」と認める。【思・判・表】 ・積み上げた物や並べた物の一方を基準にして比べようとするに関心をもち、繰り返しタワー作りや電車作りに取り組む。【学・人】	生活2 オ人との関わり 算数2 C測定
(3) ようこそ ぼくらの さんさんらんどへ ・招待状作り ・話し方の練習とリハーサル ・1・2年の招待 ・まとめと掲示物作り	6	・招待状作りやリハーサルを通して、1・2年生の友達や担任の名前が分かる。【知・技】 ・教師と一緒に伝えたいことや紹介したいことを考え、言葉や身振りで表現しながら「こんにちは」「ありがとうございます」と自分から挨拶する。【思・判・表】 ・「高いタワーを作ろう」など、1・2年生に遊び方を説明する際に、高い、長いを使って表現しようとする。【思・判・表】 ・1・2年生にさんさんらんどの楽しさや工夫を伝え、自分から関わりを楽しもうとする。【学・人】	生活2 オ人との関わり 算数2 C測定

6 本時の計画（総時数24時間中の18時）

(1) 全体の目標

- ・より高いタワーを作るために、箱の高さや大きさに気付き、積み上げ方を工夫し表現する。

【思・判・表】

(2) 個別の目標と手立て

氏名	単元の目標	本時の目標	目標達成の手立て
A	<ul style="list-style-type: none"> ・箱には向きがあることを理解し、教師や友達に適切な表現で協力を依頼する。【知・技】 ・箱の向きによって高さや安定感が変わることを体感的に理解し、目的に応じて向きを変えながら積み上げたり敷き詰めたりする。【思・判・表】 ・教師や友達に認められる喜びを実感しながら、テーマに応じた目的物を進んで作ろうとする。【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての箱が積み上がるように、箱の向きや順序を工夫してタワーを作る。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> ・箱を接着させてタワーを作ることが分かるように見本のタワー作りを演示する。 ・全ての箱を使ってタワーを作ることが分かるように、箱に児童の目印となるシールを貼る。 ・箱の向きを意識しながら活動できるように、積み上げる際にどの向きで置くか問い掛ける。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・実物を比べて相対的な高い、長いが分かり、身近な友達への適切な伝え方が分かる。【知・技】 ・高くする、長くするなどのポイントが身近な友達に伝わるように工夫をして目的物を作る。【思・判・表】 ・1・2年生とさんさんらんどで関わることを楽しみに、高いタワーや長い電車などを作ろうとする。【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・さんさんタワーと高さを比べながら、より高いタワーを作れるように箱の置き方を工夫して積み上げる。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きい箱が下にあるほうが安定することや、箱の置く向きによって高さが変わることなど、本時までで学んでいることを確認できるように、カードなどにして掲示する。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・高い、長い用語が分かり、身近な人への適切な伝え方を身に付ける。【知・技】 ・高いや長いを意識して積み上げ方を工夫し、身近な人に感じたことを伝えて目的物を作る。【思・判・表】 ・積み上げる、並べるを繰り返し、友達と作った物を合体させるなど、積極的に活動する。【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・高いタワーを作ろうと、箱の置き方を変えたり、教師に依頼したりするなど工夫する。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> ・「高くなったね」「横にしてみる？」など、高さを意識する言葉掛けや、工夫を促す言葉掛けをする。

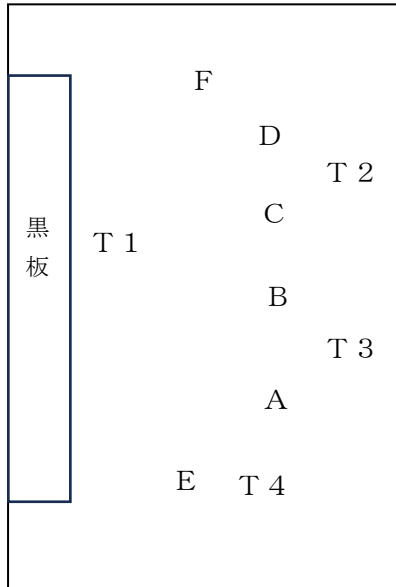
氏名	単元の目標	本時の目標	目標達成の手立て
D	<ul style="list-style-type: none"> 身近な教師や友達と箱をやりとりしながら積み上げる活動を通して高い、長いという用語が分かる。 【知・技】 高さ、長さなどのテーマに応じた目的物を作り、教師や友達にその様子を話す。 【思・判・表】 テーマに応じた目的物を進んで作り、工夫や頑張ったことを身近な友達に伝えようとする。 【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> 高いタワーを作ることが分かり、箱の置き方を工夫して高く積み上げる。 【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> 集中して取り組むことができるように、活動場所を指定する。 必要に応じて、「高く積みます」と活動が分かる言葉掛けをし、箱を手渡す。
E	<ul style="list-style-type: none"> ある、ないの用語に注目して表現する技能を身に付け、身近な人との関わり方に感心をもつ。 【知・技】 箱の積み上げや並べる活動に関心をもち、自分のことに取り組もうとする。 【思・判・評】 教師と一緒に表現して、さんさんらんどを作ろうとする。 【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> 教師と一緒に箱の積み上げや並べる活動をして、箱に手を伸ばし、つかもうとする。 【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> 積み上げることができるように、筒を用意する。箱の動きや積み上がる様子が分かるように、筒に窓を付ける。 手元に注目しやすいように、きらきら光る箱を使用する。
F	<ul style="list-style-type: none"> 高い、長いという用語や1・2年生、担任の名前が分かる。 【知・技】 高さや長さのための工夫をして箱を積み上げ、並べるとともに、その工夫を身近な友達に伝える。 【思・判・表】 1・2年生と関わって遊ぶことを楽しみにして、テーマに応じた目的物を進んで作ろうとする。 【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> 高いタワーを作ることが分かり、倒れないように工夫をして箱を積み上げる。 【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> 安定して積み上げられるように、準備している箱のうち、一定の大きさ以上の物を使用する。 積み上げる順番を考えられるように、大きい箱を下にすることなどをイラストや写真のカードにし、本児の近くに提示する。

(3) 学習過程

時間(分)	学習活動	手立て・指導上の留意点
10:40 (5)	1 本時の活動内容や、めあてを知る。 ・作る物を知る ・めあてを知る	<ul style="list-style-type: none"> ・「さんさんらんど」の学習であることを意識できるように、児童と一緒に看板を設置する。 ・1・2年生を招待し、一緒に遊ぶために準備をしていることを確認できるように、1・2年生の顔写真を準備する。 ・活動に見通しや期待感をもてるように、マップや単元計画表を見て本時の活動を確認する。 ・高さの目標となるように、見本のタワーを提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて さんさんタワーよりたかくて、くずれないタワーをつくろう。</p> </div>
10:45 (25)	2 タワー作りをする。 ・タワー作り① ・確認タイム ・タワー作り②	<ul style="list-style-type: none"> ・いつでも確認できるように、「大きい箱は下に」などの既習事項を活動場所に掲示する。また、既習事項を思い出して制作できるように、適宜、掲示の内容を確認したり「どっちを下にする？」などと発問したりする。 ・楽しんで活動できるように、必要に応じて、教師が箱を手渡し一緒に積む。 ・振り返りの場面に生かせるように、活動中の気付きやつぶやきは、T1が黒板に板書する。 ・安全に制作できるように、児童が巧技台に上がる時には確実に見届ける。 ・Eが様々な感覚や感触を楽しみながら活動できるように、歩く場面を設けるとともに、教材・教具の素材を工夫する。 ・Aが安心して存分に活動できるように、別室でも同様の活動ができる場を設定し、T3は様子に応じて一緒に活動する。 ・「高い」という用語を意識できるように、CやDが工夫した際は場面を捉えて「高いね」などと言語化し、伝える。 ・児童同士で高さを確認できるように、制作の途中で見本のタワーと比べる時間（確認タイム）を設ける。 ・Fが友達の制作の仕方に目を向け、まねできるように、個別に確認をする。
11:10 (5)	3 片付けをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・制作の時間の終わりが分かるように、タイマーで知らせる。 ・箱を片付ける場所が分かり、自分で片付けに取り組みるように、コンビネーションマットを置き場として準備する。
11:15 (10)	4 本時のまとめをする。 ・タワーを見合う ・振り返りの発表 ・次時の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・「高い」という用語への理解が深まるように、制作したタワーと見本のタワーを比べる場面を設ける。また、「高いほうはどっちかな」などと発問する。 ・次時からの活動に対して期待感をもてるように、「ぼくらのまち」の完成を一緒に喜び合うとともに、単元計画表を使用し予定を確認する。

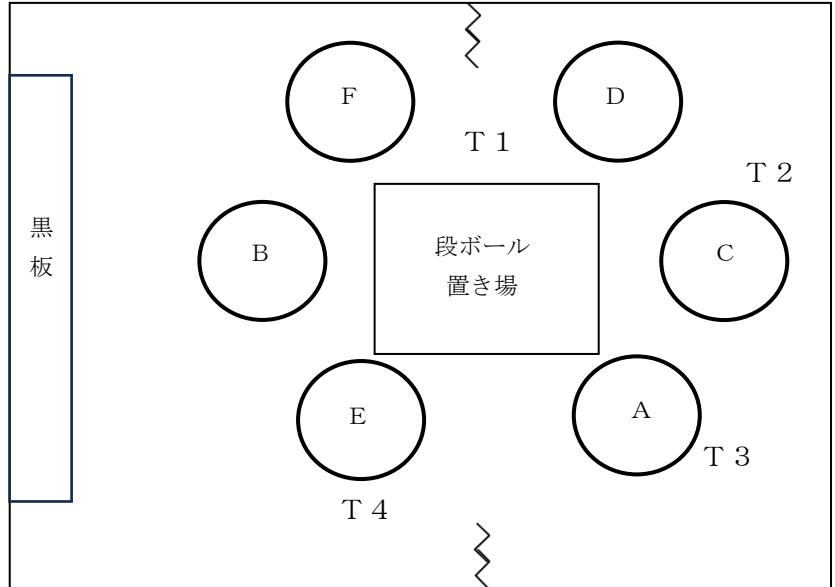
(4)配置図

〈はじめ、おわり〉



出入口

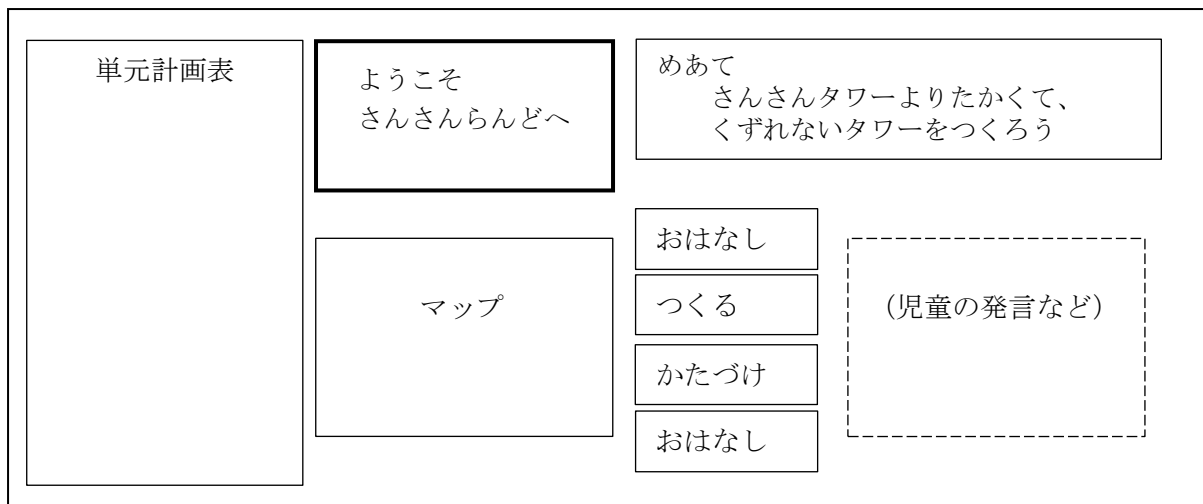
〈タワー制作時〉



出入口

出入口

(5)板書計画



(6)評価

(児童)・見本と比べながら、より高く積み上げられるように、箱の向きや積む順序、置き方などを工夫していたか。【思・判・表】

(教師)・高さや大きさの違いに気付き、工夫して箱を積み上げるための、活動設定や教材・教具の準備、教師の発問や働き掛けは適切であったか。

中学部 2 年 生活単元学習 学習指導案

日 時 令和 5 年 9 月 8 日 (金) 10 : 20 ~ 11 : 10
場 所 中学部 2 年教室
授業者 原田知加良 (T 1) 大塚佳樹 (T 2)
菊地操 (T 3)

1 単元名 中 2 宇宙のまちづくりプロジェクト ～能代支援学校産「宇宙の植物」を発信しよう！～

2 単元の目標

- (1) 能代市地域おこし協力隊による宇宙のまちづくりの取組や、自分たちが育てている宇宙に関連した植物の特徴が分かる。【知・技】
- (2) 宇宙のまちづくりに対する自分たちの関わり方を考え、宇宙に関連した植物について調べて分かったことを表現する。【思・判・表】
- (3) 能代市地域おこし協力隊との関わりや自分たちの発信に期待感をもち、効果的な表現方法について友達と意見を出し合いながら、積極的に調べ、まとめようとする。【学・人】

【知・技】知識・技能 【思・判・表】思考力・判断力・表現力等 【学・人】学びに向かう力・人間性等

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む姿
・ 能代市が宇宙のまちづくりを進めている理由や進め方を理解している ・ 植物の色や形の違い、育ち方等について理解している。	・ 宇宙のまちづくりに関して自分たちに何ができるかを考えようとしている。 ・ 宇宙に関連した植物について調べて分かったことを表現しようとしている。	宇宙のまちづくりに関心をもち、表現方法に関する意見を友達と出し合いながら積極的に調べたり、まとめたりしようとしている。

※単元で扱う主な各教科等 社会、理科

4 生徒と単元

(1) 生徒について

本学級は、男子 4 名、女子 2 名の計 6 名からなる。うち男子 1 名が脳回形成異常症による肢体不自由のある生徒である。活発で明るく、友達と一緒に活動することが好きな生徒、優しく思いやりのある生徒が多い。みんなと楽しく活動したい思いはあるが、失敗を恐れて活動に消極的になる姿、自分の失敗や他者からの助言を素直に受け入れられない姿、一方的に話してしまい話の内容がうまく伝わらない姿も見られる。

前年度は「中 1 Lab」と題し、宇宙や植物を題材とした学習に取り組んだ。活動前に予想を立て、自分の考えをもつ経験を積み重ねる中で、観察する力と意見を主体的に伝えようとする態度が育った。今年度は、話を聞く際と発表する際のルールの提示、授業におけるタブレット型端末の積極的な活用を繰り返すことで、意見を自分から伝えたり、相手の話を最後まで聞いたりすることができるようになってきた。自分本位に活動を進めてしまう様子もまだ見られるが、言葉を掛け合って活動する姿も増えてきた。様々な活動に友達と協力して取り組み、やり遂げることで得られる達成感を積み重ねながら、他者と協働することや責任をもって役割を果たす必要性について、実感を伴って理解することが必要である。

(2) 単元について

本単元は、能代市地域おこし協力隊による宇宙のまちづくりを題材とし、「宇宙のまち・能代」の魅力を自分たちで考え発信する活動に取り組む。地域おこし協力隊が制作した Vtuber「宙彩（そらいろ）しろん」を活用することで、市の特色や発展に向けた活動に関心をもち、意欲をもって学習に取り組む姿を引き出したい。昨年度の学習を生かし、学級では、宇宙アサガオ、UFOピーマン、宇宙芋といった宇宙を連想させる名前の植物を栽培している。これらの特徴や魅力を自分たちの「宇宙

をテーマにした活動」として動画にし、作成したものを大好きなVtuberから「宇宙のまちづくり」の一環としてSNSで情報発信してもらい機会を設定する。植物の姿や育ち方、名前の由来となる特徴、日々の観察で気付いたことなどを動画にまとめる活動を通し、栽培する植物の特徴や観察の仕方についての関心を深め、理解するとともに、自分の考えを分かりやすく表現する力を高めたい。また、学習を進める中で、それぞれの役割やグループを決め、友達と意見交換や共同作業をする場面を設定することで、友達と意見を伝え合う力や自分の役割に責任をもってやり遂げる力が身に付くと考え、本単元を設定した。

(3) 指導について

- ・能代市地域おこし協力隊による宇宙のまちづくりについて理解を深め、関わり方を考えることができるように、取組の概要を振り返ったり、最新の情報を調べたりする活動を設定する。
- ・自分たちが育てている植物に興味をもち、植物の特徴について理解を深めていくことができるように、実物の観察、撮影した画像の比較など、様々な観察方法を示す。
- ・日々の植物の観察記録や、校外学習で撮影した写真や動画をクラウド上にまとめることで、生徒や教師がいつでもデータにアクセスできるようにする。
- ・植物の特徴や育ち方について、生徒が自分で読み返して既習事項を確認できるように、要点を簡潔に整理するための構成を工夫したワークシートを準備する。
- ・自分の意見をもって学習に取り組めるように、調べ学習の前に自分の予想を立てたり、結果を考察したりする時間を設定する。
- ・活動を進める中で、よりよい発信をしたいという意欲がもてるように、地域おこし協力隊の方に直接報告する機会を設け、評価や改善の意見をもらう。
- ・活動の中で友達と協力し、得意なことを生かしたり意見を出し合ったり考えを深めたりできるように、ペアやグループで活動する場面を設ける。
- ・友達と協力して活動することのよさに気付くことができるように、互いの学習成果を認め合う場面や改善点を考えて伝え合う場面を設定する。
- ・話の聞き方、発表の仕方、タブレット型端末の使い方など、ルールを守って学習を進めることができるように約束事は視覚的に提示する。
- ・学級集団の中で、自分の意見を伝えたり、友達の意見を聞いたりすることができるように、タブレット型端末に入力した言葉や文章をディスプレイに映し出し、考えを共有する。

5 指導計画（総時数 34 時間）

小単元名・主な学習活動	時数	目標	扱う主な各教科等
(1) Vtuber と宇宙のまちづくりを進めよう ・前単元の振り返り ・オリエンテーション	3	・宇宙のまちづくりに向けて地域おこし協力隊の方が取り組んでいる活動が分かる。【知・技】 ・宇宙のまちづくりへの関わり方について考える。【思・判・表】 ・Vtuber と関わって活動を進めることを楽しみに、友達と協力して活動に取り組む。【学・人】	社1 社会参加と きまり 社1 我が国の地理 や歴史
(2) 「宇宙アサガオ」を発信！ ・植物の観察 ・特徴の整理 ・紹介動画の制作 ・地域おこし協力隊への報告 ・振り返り	9	・宇宙アサガオの育ち方や形などの特徴が分かる。【知・技】 ・宇宙アサガオについて、普通のアサガオとの差異点や育ち方などの特徴を調べ、表現する。【思・判・表】 ・宇宙アサガオについてSNSで発信することを楽しみに、友達とやりとりし合ったり調べ学習や	社1 社会参加と きまり 理1 生命

		動画制作に取り組む。【学・人】	
(3)「UFOピーマン」を発信！ ・評価を受けた活動の見直し ・植物の観察 ・特徴の整理 ・紹介動画の制作 ・地域おこし協力隊への報告 ・振り返り	11 本時 4/11	・UFOピーマンの色や形、育ち方等の特徴が分かる。【知・技】 ・UFOピーマンについて、普通のピーマンとの差異点や共通点、育ち方等の特徴を調べ、表現する。【思・判・表】 ・地域おこし協力隊の方からの評価を基に、よりよい発信を目指して、友達と協力して調べ学習や動画制作に取り組む。【学・人】	社1 社会参加と きまり 理1 生命
(4)「宇宙芋」を発信！ ・評価を受けた活動の見直し ・植物の観察 ・特徴の整理 ・紹介動画の制作 ・地域おこし協力隊への報告	8	・宇宙芋の育ち方や分類等の特徴が分かる。【知・技】 ・宇宙芋の育ち方や分類等の特徴について調べ、表現する。【思・判・表】 ・Vtuber と関わって自分たちの活動をSNSで発信することを楽しみながら、友達と協力し、自分の役割に責任をもって取り組む。【学・人】	社1 社会参加と きまり 理1 生命
(5) 単元のまとめ ・学習の振り返り ・今後の学習について	3	・今までの活動を振り返り、今後の宇宙のまちづくりへの関わり方や自分たちにできることを考える。【思・判・表】【学・人】	社1 社会参加と きまり 社1 我が国の地理 や歴史 理1 生命

6 本時の計画（総時数 31 時間中の 13 時）

(1) 全体の目標

- ・UFOピーマンの育ち方、色、断面について既習事項を活用して表現する。【思・判・表】

(2) 個別の目標と手立て

氏名	単元（題材）の目標	本時の目標	目標達成の手立て
A 2グループ	・宇宙のまちづくりの取組や宇宙の植物の特徴が分かる。【知・技】 ・宇宙のまちづくりについて興味をもったり、宇宙の植物について調べて分かったことを友達と協力して表現したりする。【思・判・表】 ・地域おこし協力隊の方との活動を楽しみに、自分の役割ややるべきことを理解して活動する。【学・人】	・UFOピーマンの色について、どのような変化をするか表現する。【思・判・表】	・変色の様子について考えることができるように、アプリで色のグラデーションを調べる場面を設ける。
B 3グループ	・宇宙のまちづくりの主な取組、宇宙の植物の特徴が分かる。【知・技】 ・調べて分かったことを単語や簡単な文章で書き、発表する。【思・判・表】 ・地域おこし協力隊の方との活動を楽しみに、自分の役割を理解して最後まで活動に取り組む。【学・人】	・UFOピーマンの断面の特徴や普通のピーマンとの共通点について簡潔に表現する。【思・判・表】	・ピーマンの中身が空洞になっていること、小さい種があることといったポイントを既習のワークシートで確認する。

C 1グループ	<ul style="list-style-type: none"> 宇宙のまちづくりの取組や宇宙の植物の特徴が分かる。【知・技】 宇宙のまちづくりへの関わり方について考えたり、宇宙の植物について調べ、分かったことを友達と協力して表現したりする。【思・判・表】 地域おこし協力隊の方と関わり、宇宙の植物をSNSに発信することを楽しみに、友達と協力して活動する。【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> UFOピーマンの育ち方について、葉や実の変化の順序や様子をスライドで示して表現する。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> 育ち方について表現するために、どのように変化していくのかをワークシートや画像で確かめる場面を設ける。
D 2グループ	<ul style="list-style-type: none"> 教師や友達と一緒に宇宙のまちづくりに関わったり、宇宙の植物を育てたりする。【知・技】 地域おこし協力隊の方との関わりや宇宙の植物を育てる活動を通して、分かったことや気付いたことを教師と一緒に伝える。【思・判・表】 自分の役割が分かり、友達や教師と一緒に自分から取り組む。【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> UFOピーマンの色について、タブレット型端末の操作を通して実物と同じ色を選び、友達や教師と一緒に特徴を表現する。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の活動に役割意識をもって最後まで取り組むことができるように、本時の活動や使う道具、材料を視覚的に示したり、友達と一緒に協力して活動する場面を設定したりする。
E 3グループ	<ul style="list-style-type: none"> 宇宙のまちづくりの主な取組、宇宙の植物の特徴が分かる。【知・技】 宇宙のまちづくりへの関わり方について考えたり、宇宙の植物について調べ、分かったことを友達と協力して表現したりする。【思・判・表】 Vtuber と関わりながら活動を進めることを楽しみに、友達と協力して活動する。【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> UFOピーマンの断面について、普通のピーマンとの差異点と共通点を表現する。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> 断面の特徴を表現する際に、ピーマンの切り方と断面の見せ方について、既習のワークシートで確かめる場面を設ける。
F 1グループ	<ul style="list-style-type: none"> 宇宙のまちづくりの主な取組、宇宙の植物の特徴が分かる。【知・技】 調べて分かったことを単語や簡単な文章で書き、発表する。【思・判・表】 Vtuber と関わり、宇宙の植物をSNSに発信することを楽しみに、進んで自分の役割に取り組む。【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> UFOピーマンの育ち方について、葉や実がどのように変化するかを表現する。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> 育ち方について表現するために、葉の数や実の大きさや形にどのような変化があるのかをワークシートや画像で確かめる場面を設ける。

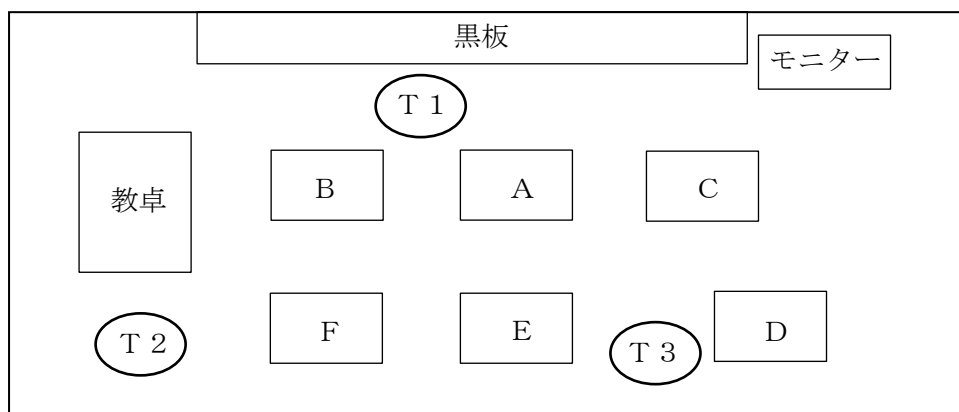
(3) 学習過程

時間(分)	学習活動	手立て・指導上の留意点
10:20 (5)	<ol style="list-style-type: none"> 1 始めの挨拶をする。 2 前時の振り返りをする。 3 本時のめあてを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの学習と本時に行う学習について、全員で確認することができるように、単元計画表、動画、画像、ワークシートを見て振り返る場面を設ける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて</p> <ul style="list-style-type: none"> UFOピーマンの育ち方、断面、色について、調べたことを分かるように表そう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 自分の活動に対して役割意識をもてるように、地域おこし協力隊の尾崎さんとVtuber 宙彩しろんの画像を提示し、本時の活動が能代市の「宇宙のまちづくり」につながっていることを確認する。

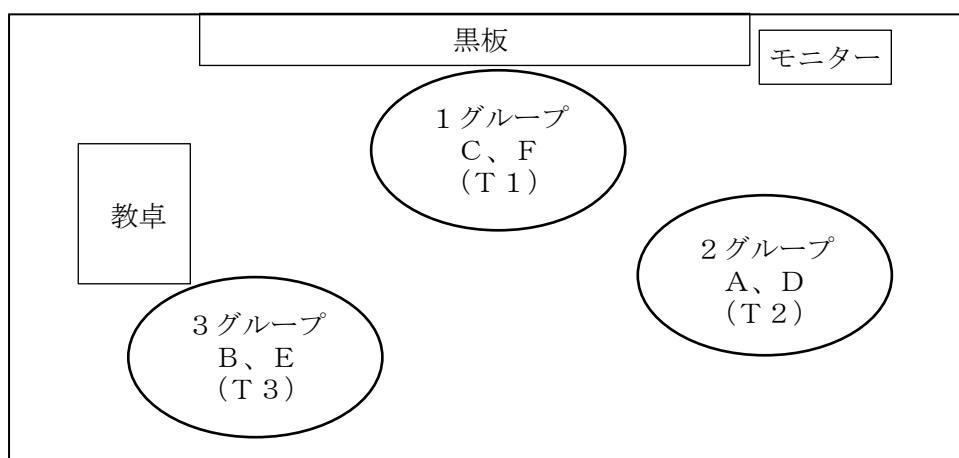
時間(分)	学習活動	手立て・指導上の留意点
10:25 (20)	4 役割分担をして、特徴を伝える。 (1)ペアごとに分かれて活動する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時での自分のやるべきことが分かるように、ペアの相手と役割を板書で示す。 ・既習事項を生かして学習を進めることができるように、前時に使ったワークシートを見て特徴のポイントを確認しながら活動していくよう伝える。
	<ul style="list-style-type: none"> ・1グループ(T1) ペア：C・F 担当：育ち方(過程や実の膨らみ方) 内容：keynoteでのスライド作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・1グループは、keynoteを使ってスライドを作り、UFOピーマンの育ち方についてまとめる。T1がアプリの使い方や操作について補助を行う。 ・ペアで協力しながら活動を進められるように、活動を始める前に画像挿入や文字入力の役割を決め、二人で話し合って文章を考えることを伝える。 ・育ち方の過程や実の膨らみ方を順序立てて考えられるよう、最初に、使う画像を順番に並び替えてからスライド作成に取り組むよう伝える。
	<ul style="list-style-type: none"> ・2グループ(T2) ペア：A・D 担当：色(熟す過程での色の変化) 内容：keynoteなどでの色選択と表現 	<ul style="list-style-type: none"> ・2グループは、UFOピーマンが熟す過程で色が変わっていくことについて、keynoteなどを使って選択、表現する。 ・DがUFOピーマンと同じ色を選ぶことができるように、実物と画面を見比べる場面を設ける。 ・Aが色の変化の順番に気付くことができるように、画像の撮影日に着目して調べるよう言葉掛けをする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・3グループ(T3) ペア：B・E 担当：断面(普通のピーマンとの類似点・差異点) 内容：実演と撮影 	<ul style="list-style-type: none"> ・3グループは、実際にUFOピーマンを切る様子を撮影する。刃物で怪我をしないように、T3が刃物の管理を行い、正しい持ち方や使い方を指導する。 ・ペアで協力しながら活動を進めることができるように、活動の前に切る係と撮影する係の分担を行う場面を設ける。 ・見た目は異なるが中身の作りは似ているという特徴に気付けるように、普通のピーマンも用意する。
10:45 (10)	(2)ペアごとに本時の振り返りと進捗発表の準備をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を振り返り、UFOピーマンの特徴についてうまく表現できたことや工夫したことについてペアで考えることができるように、作成物を一度見返す場面を設定する。
10:55 (10)	5 全体で進捗状況を発表し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・学級全体で学習の成果を共有することができるように、各グループの作成物を披露し、感想を発表する場面を設ける。
11:05 (5)	6 本時のまとめと次時の確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の成果を記録、蓄積しながら学んだことを実感できるように、生徒の発表を受けて教師が評価を口頭や文章で伝える。
	7 終わりの挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・次時への見通しをもつことができるように、ペアごとにやるべきことを確認する。

(4)配置図

〈導入、まとめ〉



〈ペアでの活動〉



(5)板書計画

<p>本時の流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> あいさつ めあて ペアで活動 発表 まとめ あいさつ 	<p>中2宇宙のまちづくりプロジェクト ～能代支援学校産「宇宙の植物」を発信しよう～</p>	<p>話を聞くと 発表するとき の約束</p>
	<p>めあて</p> <p>UFOピーマンの育ち方、断面、色について、調べたことを分かるように表そう。</p> <p>(役割分担)</p> <p>・育て方 ・色 ・断面 C、F A、D B、E keynote keynote 動画撮影</p>	<p>まとめ</p> <p>特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育て方 ・断面 ・色

(6)評価

(生徒)・既習のワークシートの内容を確認しながら、UFOピーマンの特徴について言葉や画像、動作などで表現することができたか。【思・判・表】

(教師)・UFOピーマンの特徴を表現するための活動設定や教材・教具の準備、教師の支援は適切であったか。

高等部 作業学習 [縫製・クラフト班] 学習指導案

日 時 令和5年11月2日(木) 10:20~11:10

場 所 縫製・クラフト室

授業者 菅 奈穂 (T1) 伊藤健人 (T2)

高橋 勝 (T3)

1 単元名 新エコバッグ・きんちやく袋を販売しよう ～「能代支援ショップ」に向けて～

2 単元の目標

(1) 目的に応じた縫い方や、用具の安全な使い方を身に付ける。【知・技】

(2) 仕上がりの良否を自分で判断し、規格を満たすための方法を考え、表現しながら改善する。

【思・判・表】

(3) 地域で販売するという共通の目標に向かって、自分の工程に責任をもち、よりよい製品を作ろうとする。【学・人】

【知・技】 知識・技能 【思・判・表】 思考力・判断力・表現力等 【学・人】 学びに向かう力・人間性等

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む姿
ミシンやアイロン、裁ちばさみ、縫製や染色に使う用具等を正しく安全に使用しながら製作することができる。	見本と比較しながら仕上がりの良否を自分で判断し、よりよい製品にするために相談したり考えたりして作業している。	地域で販売するという目標を仲間と共有し、分担された工程に責任をもってよりよい製品を作ろうとしている。

※単元で扱う主な各教科等 職業科、家庭科

4 生徒と単元

(1) 生徒について

本学習グループは、1年生3名、2年生2名、3年生4名の計9名からなる。座位保持椅子を使用している生徒が2名、不登校傾向で月2回程度参加している生徒が1名いる。口頭での全体指示は概ね理解できるが、個別対応が必要な生徒もいる。染め部門の生徒3名については、前単元から繰り返し取り組んできたことで自分の役割を理解し、自分の力で取り組もうとする姿が増えてきた。縫製部門の生徒5名については、手縫いやミシン操作の経験を生かし、自信をもって製品作りに取り組む生徒が多い。製品の質より量を重視する生徒が多く、危ないやり方になったり仕上がりが雑になってしまったりすることがあるが、9名全員が販売会の目標売上数の達成に向けて意欲的に取り組んでいる。そのため、用具を正しく安全に使用し、仕上がりの良否を判断する力を身に付ける必要がある。

(2) 単元について

本単元では、2月に実施する「能代支援ショップ」に向けて、新エコバッグときんちやく袋の製作を行う。前単元では、学校祭での販売に向けて、身近な資源であるマリーゴールドで草木染めした布を使用し、昨年度から製作しているきんちやく袋の他にエコバッグを新たに製作した。一人一人が自分の力で取り組むことができるよう作業内容を精選し、染め部門から縫製部門までの作業工程を分担して製作する。作業内容は異なるが、全員で一つの物を製作することで、自分の担当する工程に責任をもち、よりよい製品を製作しようとする力が高まると考えた。また、作業工程に加えてその理由や必要性を明確にすることで、用具の安全な使い方や目的に応じた縫い方など技術面の向上を目指したい。新エコバッグについては、保護者や地域の方のアンケートから具体的な改善案を考え、試作しながら製作する。お客様のニーズから品質の改善を図っていくことで、作業の正確性、相手意識をもった意欲的な取組が期待できると考え、本単元を設定した。

(3) 指導について

- ・ミシンやアイロンを安全に取り扱うため、注意事項を用具の近くに貼って自分で確認できるようにする。
- ・作業工程の意味を理解して取り組むことができるように、なぜその工程が必要なのか理由を伝える。また、定期的に発問し意識付けを図る。
- ・規格どおりに製作することができるように、個々の手元に正確に作業するための要点が示された工程表を準備する。もし規格外になってしまった場合、改善すべきポイントが分かるように、具体的な作業方法を3～4つ提案し、実践する場を設ける。
- ・自分で担当作業の良否の判断ができるよう、写真付きのチェックリストや比較する実物を準備する。
- ・全員で一つの物を製作していることが視覚的に分かるように、黒板に工程表を掲示する。
- ・製品の改善点が分かるように、「お客様の声」を黒板に掲示する。
- ・自信をもって作業に取り組み、課題のレベルアップを図ることができるように、染め部門では個々の実態、縫製部門では手縫いやミシンの技術力に応じて作業工程を分ける。
- ・自分で考えたり行動したりする主体的な姿を引き出すことができるように、作業内容や習熟度に応じて教師の数を減らす。

5 指導計画（総時数 82 時間）

小単元名・主な学習活動	時数	目標	扱う主な各教科等
(1) 新エコバッグを試作しよう ・アンケートを基に、どの部分を改善するか話し合う。 (布の色、ポケット、持ち手等) ・布の草木染めをする。 ・印付け、裁断、しつけ縫い、本縫い、アイロン掛けをする。 ・新エコバッグを決める。	10 本時 9/10	・改善する部分に分かり、違いやよさに気付く。【知・技】 ・試作品の必要性を理解し、正確に作業に取り組む。【思・判・表】 ・自分の工程に責任をもって取り組もうとする。【学・人】	職1 職業生活 家1 衣食住の生活
(2) 新エコバッグ・きんちゃく袋を製作しよう ・目標個数を設定する。 ・布の草木染めをする。 ・印付け、裁断、しつけ縫い、本縫い、アイロン掛けをする。 ・きんちゃく袋のひも通しをする。 ・完成品の袋詰めをする。	60	・目的に応じて縫ったり用具を安全に使ったりする。【知・技】 ・仕上がりの良否を自分で判断し、規格を満たすための作業方法を考えたり相談・報告したりする。【思・判・表】 ・販売を意識し、自分の工程に責任をもって仕上がりのよい製品を作ろうとする。【学・人】	職1 職業生活 家1 衣食住の生活
(3) 能代支援ショップで販売しよう ・ポスターを制作する。 ・販売練習をする。 ・支援ショップで販売する。 ・売上金の確認をする。 ・振り返りをする。	12	・製品の品質や販売時の役割が分かる。【知・技】 ・売れるにはどうしたらよいか商品陳列等の仕方を工夫する。【思・判・表】 ・仲間と共に完売を目指して自分の役割を行おうとする。【学・人】	職1 職業生活

6 本時の計画（総時数 82 時間中の 9 時）

(1) 全体の目標

- ・担当する工程と正確に製作するポイントを理解し、新エコバッグの試作をする。

【知・技】【思・判・表】

(2) 個別の目標と手立て

氏名	単元の目標	本時の目標	目標達成の手立て
A (染め)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割や作業内容が分かる。【知・技】 ・担当する作業の要点を意識して、時間いっぱい取り組む。【思・判・表】 ・自分の工程に責任をもって取り組もうとする。【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・マリーゴールドを 50 グラムずつ計量し、袋に入れる。【知・技】 ・50 グラムになったことを発声で教師に伝える。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> ・手を動かしやすいように、使用する用具の位置や高さを T2 と確認しながら行う。 ・自分から教師に伝えることができた際には、称賛する。
B (染め)	<ul style="list-style-type: none"> ・担当する作業手順を理解し、準備から作業完了まで自分の力で取り組む。【知・技】 ・決められた時間いっぱい作業に取り組む。【思・判・表】 ・自分の工程に責任をもって取り組もうとする。【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・模様付けに使用するビー玉の大きさと印が分かり、一人で取り組む。【知・技】 ・印に応じてビー玉の大きさを変えて、布に模様付けをする。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビー玉と絞る箇所の違いが分かるように、印の色を変える。 ・自分で判断し、正しくビー玉を絞ることができた際には称賛する。
C (染め)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割や作業内容が分かる。【知・技】 ・担当する作業の要点を意識して、時間いっぱい取り組む。【思・判・表】 ・販売を意識し、仕上りのよい製品を製作しようとする。【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・布がむらなく染まるように、へらを使用して草木染めと媒染をする。【知・技】 ・布に染液がまんべんなく浸かるように、10 分間へらで押し続ける。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> ・手を動かしやすいように、使用する用具の位置を T3 と確認しながら行う。 ・布に染液がまんべんなく浸かるように、T3 が容器を動かしたり、へらで押す箇所を指差したりする。
D (縫製)	<ul style="list-style-type: none"> ・布目の縦と横が分かり、製品に応じて正しい長さで裁断する。【知・技】 ・仕上りの良否を自分で判断する。【思・判・表】 ・担当する工程の必要性和責任感をもって正確に作業しようとする。【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・布目を確認し、各部品に応じた長さで裁断する。【知・技】 ・見本と比較して、仕上りの良否を自分で判断する。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> ・布目や仕上りの良否を自分で判断できるように、写真や実物を準備する。また、判断に迷った場合は教師に相談してもよいことを伝える。
E (縫製)	<ul style="list-style-type: none"> ・用具を安全に使用しながら、規格通り正確に製作する。【知・技】 ・仕上りの良否を自分で判断する。【思・判・表】 ・販売を意識し、仕上りのよい製品を製作しようとする。【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミシン縫いでは、一本の線になるように正確に返し縫いをする。【知・技】 ・見本と比較して、仕上りの良否を自分で判断する。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> ・正確に返し縫いをしたり、仕上りの良否を判断したりすることができるように、縫うときのポイントや善し悪しを視覚的に示す。

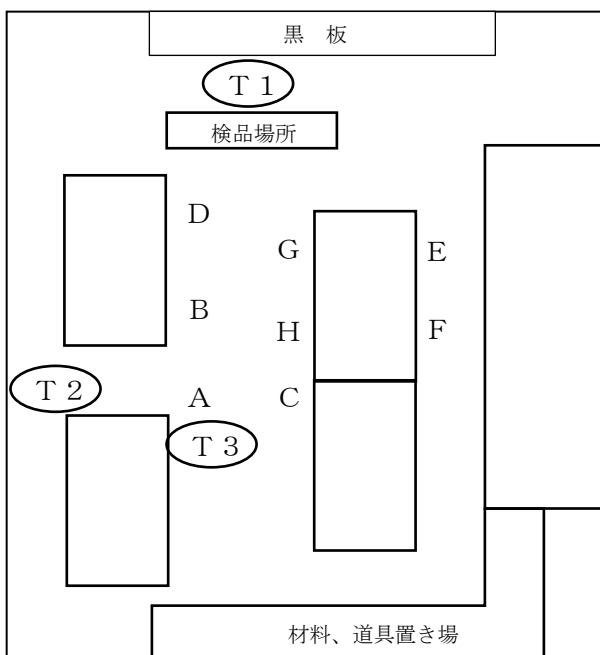
<p>F (縫製)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部分に適した縫い方で、規格通り正確に製作する。 【知・技】 ・仕上がりの良否を自分で判断し、よりよい製品にするために工夫する。 【思・判・表】 ・販売を意識し、仕上がりのよい製品を製作しようとする。 【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・手順を守り、印どおりに真っ直ぐミシン縫いする。 【知・技】 ・口や底マチの仕上がりの良否を自分で判断する。 【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> ・印どおりに真っ直ぐミシン縫いすることができるように、姿勢やミシンの速度などを確認する。 ・仕上がりの良否を自分で判断できるように、明確な基準を視覚的に示す。
<p>G (縫製)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部分に適した縫い方で、規格通り正確に製作する。 【知・技】 ・仕上がりの良否を自分で判断し、よりよい製品にするために工夫する。 【思・判・表】 ・自分の工程に責任をもち、仕上がりのよい製品を製作しようとする。【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・正確に印付けとミシン縫いをして、持ち手を縫い付ける。 【知・技】 ・持ち手部分の仕上がりの良否を自分で判断する。 【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> ・正確に印付けができるように、専用の型紙を用意する。また、ミシン縫いの前に印を確認する場面を設ける。 ・仕上がりの良否を自分で判断できるように、明確な基準を視覚的に示す。
<p>H (縫製)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担当する工程の一連の流れを理解し、正しい手順で製作する。 【知・技】 ・仕上がりの良否を自分で判断し、よりよい製品にするため必要に応じて教師に依頼、相談する。【思・判・表】 ・販売を意識し、仕上がりのよい製品を製作しようとする。 【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・印を基に均等な幅で波縫いをし、布に刺繍する。 【知・技】 ・よりよい製品にするために、教師に依頼、相談をしてアドバイスを取り入れながら作業する。 【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> ・均等な幅で波縫いできるように、手元に見本を準備する。また、見やすい色のペンで布に印付けする。 ・困ったときは教師に依頼、相談してもよいことを伝える。
<p>I (袋詰め)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・用具を正しく安全に使用しながら製作する。【知・技】 ・作業内容に向き合い、担当する作業を継続して取り組む。 【思・判・表】 ・販売を意識し、自分の工程に責任をもって取り組もうとする。 【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具を安全に使用して作業に取り組む。【知・技】 ・決められた長さや位置を守って台紙を製作し、袋詰め準備をする。 【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具を安全に使用できるように、使用方法や注意点を視覚的に提示する。 ・達成感を得られるように、袋詰めの工程を任せる。また、安心して取り組むことができるように、別室での活動を認める。

(3) 学習過程

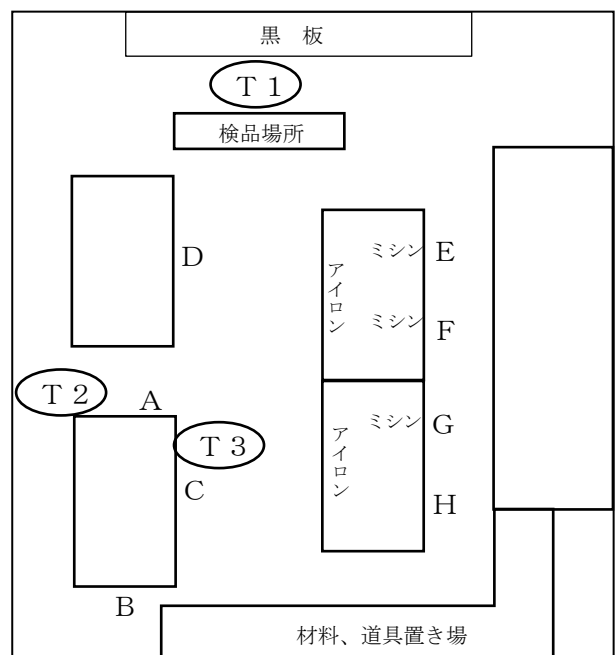
時間(分)	学習活動	手立て・指導上の留意点
10:20 (5)	1 日誌に本時の目標を記入する。	・ 正確に製作するポイントを理解して目標設定することができるように、担当の教師と目標を確認する場面を設定する。
10:25 (5)	2 はじめの会をする。 (1) 目標確認 (2) 役割確認 (3) 先生の話	・ 自分の担当する工程を流れ作業の中で理解できるように、工程表とネームプレートを使って役割確認をする。 めあて ・ 持ち手を変えた新エコバッグの試作品を正確に作る。
10:30 (25)	3 作業をする。 <u>布染め</u> (1) 計量、袋詰め (A) (2) 豆汁染め (3) 模様付け (B) (4) 草木染め (C) (5) 媒染 (C) <u>エコバッグ</u> (1) しるしつけ、裁断(D) (2) 脇縫い (E) (3) マチ付け (F) (4) 持ち手付け (G) (5) 刺繍 (H) 袋詰め準備 (I)	・ 最後まで作業に取り組むことができるように、AはT2、CはT3が事前に作業内容と活動量を相談し、道具の配置については本人に確認しながら行う。 ・ DとEが自分で良否の判断をしながら正確に作業することができるように、判断基準が示されたポイントを個別に提示し、T1が確認しながら行う。 ・ 新エコバッグにつながる試作品の良さに気付くことができるように、T1は必要に応じて前単元で作ったエコバッグとの違いなどを比較した発問をする。 ・ 規格を意識して正確に作業を進められるように、縫製部門についてはT1が検品する。 ・ Iが安心して活動に取り組むことができるように、別室で活動してもよいことを伝える。 ・ AとCは片付けを教師に依頼し、清掃時は自分で机の上を拭く。また、T2、T3と一緒に振り返りをしながら日誌を記入する。
10:55 (7)	4 片付け、清掃をする。	
11:02 (5)	5 日誌に本時の評価を記入する。	・ 今日の成果を基に目標を達成しているか評価し、担当の教師と確認する場面を設ける。
11:07 (3)	6 おわりの会をする。	・ 試作品完成表を基に、お互いの成果や全体の作業の進行具合を確認する。

(4) 配置図

<はじめの会、おわりの会>



<作業>



(5) 板書計画

新エコバッグ・きんちゃく袋を販売しよう～「能代支援ショップ」に向けて～		新エコバッグ（案）
単元 計画表	めあて 持ち手を変えた新エコバッグの試作品を正確に作る。	
	ポイント ①よく見る ②きれいに仕上げる ③もう一度見る	
	今日の作業 エコバッグ製作の工程（染め→縫製）	

(6) 評価

（生徒）・規格どおり正確に新エコバッグの試作をすることができたか。【知・技】

・ポイントを意識し、良否の判断や報告ができたか。【思・判・表】

（教師）・規格どおり正確に新エコバッグの試作をするための手立てや教材・教具は有効だったか。

・意識するポイントの提示方法や良否の判断をするための手立ては十分だったか。

あとがき

今年度の本校の研究テーマである『児童生徒の学びが「見える」授業づくり～指導と評価の一体化による確かな成長を目指して』は、我々が日々の教育活動において追求している目標を明確に示しています。この研究は、知的障害特別支援学校の教育現場における課題の幾つかを解決し、児童生徒の学びを深めるための重要な一歩になるでしょう。

本研究の一年目は、試行錯誤の連続でしたが、その過程で得られた知見は、我々の教育実践に新たな視点をもたらしました。特に、「観点別学習評価表(学びの履歴シート)」の作成や「各教育計画」の改訂は、児童生徒の学びを具体的に捉え、その成長を確かなものとするための有効な手段となりました。

また、本研究を通じて、「普段使いできる仕組み」の重要性を再認識しました。研究の成果を日々の授業に活かすことで、児童生徒の学びが「見える」授業づくりが可能となり、その結果、児童生徒の確かな成長を実感することができました。

本研究紀要を手にとっていただいた皆様には、我々の取組をご理解いただき、さらには貴重なご意見やアドバイスをいただければ幸いです。そして、本研究に対して丁寧にご指導くださった秋田県教育庁特別支援教育課指導チームの先生方と、授業研究会に参加してくださった秋田県立比内支援学校、かづの校、たかのす校の皆様我心から感謝申し上げます。

今後も、我々は児童生徒一人一人の学びが「見える」授業づくりを追求し続けます。そして、その過程で得られた知見を共有し、それを日々の授業に活かすことで、児童生徒の確かな成長を目指して参ります。

この研究は二年間にわたって行い、今回はその中間報告となります。次年度は、二年目の研究成果を報告する予定です。引き続き、皆様の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本研究紀要をお読みいただき、誠にありがとうございました。

教 頭 伊 藤 孝 義

研 究 同 人

校長 佐藤 圭吾
教頭 伊藤 孝義
教頭 佐藤 明

研究部主任
小学部
中学部
高等部
寄宿舎

山崎 恵
佐藤 礼子
小林 生
鈴木 雄裕
水谷 あすか
阿部 洋
太田 里香

大田 若奈
澤田 真実
鷺谷 恵理
佐藤 初子

【小学部】

船山 真生
館山 奈穂子
菊地 直枝
佐藤 輝美
原田 公子
佐藤 加奈子
諏訪 寿昭
大森 智美
大和 路子
佐藤 礼子
渡部 典子
鈴木 迪菜
高橋 正義
港 哲子
高橋 沙織
中川 朋美
大田 若奈
渡邊 正徳
二田 葵

【中学部】

齊藤 舞子
山崎 恵
渡部 陽子
小林 生
佐藤 洋美
安田 幸道
五十嵐 俊輔
原田 知加良
大塚 佳樹
菊地 操
館岡 裕介
山田 育宏
杉森 利津子
田口 芽

【高等部】

畠山 幸司
伊藤 健人
由利 和也
佐藤 尊
成田 彩瑛
佐賀 有沙
大山 崇彦
大高 聡美
市川 堯
菅 奈穂
橋本 基
澤田 真実
鈴木 雄裕
村岡 静香
伊藤 友和
山谷 美樹
武田 聖花
平塚 朋子
戸田 尚次
黒木 良介
高橋 勝
澤井 裕子
佐々木 正則
宮田 豪
中川 祥
村形 日都美

【寄宿舎】

安保 友希
金子 聡子
山田 眞由美
阿部 洋
菊池 静香
鷺谷 恵理
高橋 雅俊
佐藤 千鶴子
水谷 あすか
盛 真菜美
大高 尚子
高橋 紀晴
佐藤 初子
三浦 陽香
太田 里香

研究紀要 しらかみ 第30号

令和6年3月 発行

発行者

秋田県立能代支援学校

〒016-0005 秋田県能代市真壁地字トトメキ沢135番地

TEL 0185-55-0691

FAX 0185-55-0681

E-mail noshiro-s@akita-pref.ed.jp

ホームページ <https://noshiroshien.ed.jp>